表29 出土遺物観察表(29) 輸入陶磁器(1)

		15年14(八門 稅以 有许(1)							1	
No	出土地	種類	器 種	口径	去量(mm 底径	器高	調整・紋様	露 胎	胎土色	新 外 面	調内面	産地	年代・備考
第81図 1421	S A-05	青磁	Ш	_	_			外底	淡灰	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	12~13 C
1422	S A-05	青花	m	102	_		碁笥底		自	淡紺	淡紺	景徳鎮	16 c 前~中
1423	S A-05	青花	m	98		_	碁笥底		自	紺	紺	景徳鎮	16 c 前~中
1424	S A-06	白磁	碗			_	_	外面下半	淡灰白	乳白	乳白	中国	混入、12~13 c
1425	S A-17	白磁	碗	121					自	乳白	乳白	中国	混入、12~13 c
1426	S A-17	白磁	Ш	122			口禿げ	口縁内部	白	乳白	乳白	中国	混入、13 C 後~14 c中
1427	Ⅲ層	白磁	m		_		_		乳白	白	白	中国	12~13 C
1428	S A-13	白磁	Ш	127	_	***************************************			白	乳白	乳白	景徳鎮	16 C
1429	Ⅲ層	白磁	碗	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		_	Maria de la compansa		乳白	乳白	乳白	中国	12~13 C
1430	S D-03	白磁	碗	161	-	_		_	淡灰白	淡オリーブ灰	淡オリーブ灰	中国	12~13 C
1431	S D-03	白磁	Ш	104				_	淡灰白	乳白	乳白	中国か	16 C 後~17 C 前
1432	S D-04	白磁	Ш	128			_		白	乳白	乳白	景徳鎮	16 C
1433	S D-04	白磁	ш	81	51	24	口禿げ	外底:明茶	白	乳白	乳白	中国	13 C 後~14 C 中
1434	S D-01	青磁	碗		_	_	劃花文	-	淡灰	淡オリーブ灰	淡オリーブ灰	龍泉窯?	14~15 C
1435	S D-02	青磁	碗		_		劃花文		淡灰白	オリーブ灰	オリーブ灰	龍泉窯	14~15 C
1436	S K-03	青磁	碗	132	_	_	剣先蓮弁		淡灰	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	14~15 C
1437	Ⅲ層	白磁	碗	137		_		_	淡灰白	乳白	乳白	中国	12~13 c
1438	Ⅲ層	白磁	碗	160	_	_		外面下半	自	乳白	乳白	中国	12~13 C
1439	Ⅲ層	白磁	碗			_		_	乳白	乳白	乳白	中国	12~14 C 前
1440	Ⅲ層	自磁	碗	_		_	口禿げ	口唇部	自	乳白	乳白	中国	13 C 後一14 C 中
1441	Ⅲ層	白磁	碗?	_	_		_	_	淡灰白	乳白	乳白	中国	12~13 C
1442	Ⅲ層	白磁	碗	169			_	IROMANA	乳白	乳白	乳白	中国	 12~14 C 前
1443	皿層	白磁	碗	147		-			白	乳白	乳白	中国	12~13 c
1444	Ⅲ層	白磁	碗		_	_			自.	乳白	乳白	中国	12~13 c
1445	Ⅲ屠	白磁	碗		_				白	自	白	中国	12~13 C
1446	Ⅲ層	白磁	碗	135		_		NAMES OF THE PARTY	白	乳白	乳白	中国	12~13 c
1447	⟨1635⟩	白磁	碗			_	_		白	乳白	乳白	中国	12~13 c
1448	Ⅲ層	自磁	碗		_			-	淡灰	 乳白	乳白	中国	12~14c前
1449	Ⅱ層	白磁	碗		_		WY COLUMN		淡灰~淡灰白	乳白	乳白	中国	12~13 c
1450	□層	白磁	碗			_		外面下半	淡黄白	乳白	乳白	中国	12~14 C 前
1451	四層	白磁	碗			_	***************************************	外底	淡灰白	乳白	乳白	中国	12~13 c
1452	□層	白磁	碗		73	_	******	外底	白~淡黄	_	乳白	中国	12∼13 c
1453	Ⅲ層	白磁	碗		48	-		外底	白	乳白	乳白	中国	12∼13 C
1454	Ⅲ層	白磁	碗	_	80		内面:印花文	rement	乳白	乳白	乳白	中国	12~14 C 前
1455	Ⅲ層	白磁	碗	_	68		_	外底:淡黄	淡灰白		乳白	中国	12~14 C
1456	Ⅲ層	白磁	ш	153	_		_	***************************************	淡灰	透明	透明	中国	12~14 C
1457	Ⅲ層	白磁	小皿	_	_		_	_	淡黄白	白	白	中国	15 C
1458	I層	白磁	ш		_	-	-	外底	乳白	淡緑白	淡緑白	中国	12~13 C
1459	Ⅲ層	白磁	m.	109	_	_	- Annaura	外面下半:白	淡灰白	乳白	乳白	中国	12~14 C 前
1460	⟨1643⟩	白磁	Ш	121	_	_		_	乳白	乳白	乳白	景徳鎮	16 C
1461	Ⅲ層	白磁	小皿			_		_	淡黄白	乳白	乳白	中国	15 C
1462	Ⅲ層	自磁	小皿		_	_		外底	自	乳白	乳白	中国	12~14 C 前
1463	Ⅲ層	白磁	Ш		75	_		畳付き	白	自	白	景徳鎮	16 C
1464	Ⅲ層	白磁	Ш		49			畳付き:白	白	乳白	乳白	景徳鎮	16 C
1465	⟨460⟩	白磁	ш	_	43	_	内面: 蛇ノ目釉剥ぎ	外底:淡黄	淡黄白	乳白	乳白	中国	13~14c前か
1466	⟨763⟩	青磁	ш	-	43		外底:墨書	外底:淡黄灰	淡灰~淡灰白	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	14∼15 C
1467	I層	青磁	碗	139	_	-	_		淡灰	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	14 c 中~15 c 初
1468	Ⅲ層	青磁	碗		_		剣先蓮弁		淡灰	オリーブ灰	オリーブ灰	龍泉窯	15 c 後~16 c 前
1469	(1561)	青磁	碗			_	内面:劃花文		淡灰	オリーブ	オリーブ	中国	14∼15 c
1470	Ⅲ層	青磁	碗か			_		_	淡灰	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	12~13 C
1471	Ⅲ層	青磁	碗				_	-	淡灰	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14 C 後~15 C 中
1472	皿層	青磁	碗	_					淡灰	淡オリーブ灰	淡オリーブ灰	龍泉窯	12~13 c

表30 出土遺物観察表(30) 輸入陶磁器(2) 近世国産陶磁器

No	出土地	種 類	器種	口径	法量(mm 底径	器高	調整・紋様	露胎	胎土色	釉 外 面	調力面	産地	年代・備考
第81図	111層	青磁	稜花型皿	1-11±	压1主	10年10日			淡灰	グト <u></u>	淡オリーブ	龍泉窯	15~16c
1473	Ⅲ/Ē	青磁	碗	_			見込印花	外底	淡褐	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14 c 末~15 c 中
1475	(794)	青磁	碗	_	_		劃花文	/ F/EC	淡灰	淡緑黄	淡緑黄	龍泉窯	14~15 C
1476	S A-15周辺	青磁	碗	_	_	_	劃花文	AMMonato	淡灰	淡オリーブ灰	淡オリーブ灰	龍泉窯	14~15 c
1477	中世PP Ⅲ層	青白磁	合子蓋	_	_		_		自	淡青緑白	淡青緑白	中国	12~13 c
1478	⟨1462⟩	青磁	碗か		45			外底:淡茶褐	、 淡灰白	淡緑青	淡緑青	龍泉窯	12~13 c
1479	I層	青磁	碗	_	65		Norman .	_	灰褐	淡オリーブ灰	淡オリーブ灰	龍泉窯	14 c 後~15 c 中
1480	Ⅲ層	青磁	碗	_	46			外底	淡灰~淡灰黄	暗オリーブ灰	暗オリーブ灰	龍泉窯	14 C 後~15 C 中
1481	Ⅲ層	青花	碗	149	_				Ė	紺~淡紺	紺~淡紺	景徳鎮	15 c 末~16 c 中
1482	Ⅲ層	青花	碗	_	_	_			白	紺~淡紺	紺~淡紺	景徳鎮	被熱
1483	Ⅲ層	青花	碗			_	_	******	自	紺	紺	景徳鎮	15 c 後~16 c 前 16 c 後半
1484	Ⅲ層	青花	碗				_	_	白	紺・乳白	紺・乳白	福建広東系	16 c 後~17 c 初
1485	Ⅲ層	青花	碗	_	-		_	_	白	紺~青	紺~青	景徳鎮	15c末~16c中
1486	中世PP	青花	ш	_	81		内面: 玉取獅子	_	白	黒青~淡紺	黒青~淡紺	景徳鎮	16c前~中
1487	Ⅲ層	青花	ш	_	34		基笥底、外面:梅樹 文、内面: 蕉葉文	畳付き	白	紺・淡紺	紺・淡紺	景徳鎮	15c末~16c中
1488	Ⅱ・Ⅲ層	青花	ш		31	_	碁笥底	畳付き:黄褐	乳白	淡紺	淡紺	景徳鎮	15 c 末~16 c 中
1489	Ⅲ層	青花	小坏	56		_		MARAGERA	白	紺	紺	景徳鎮	16 C 後~17 C 初
1490	I層	黒釉陶器	壷か				_	and the same of th	淡紫褐	黒褐	黒、茶灰まだら	中国~タイ	14 c ~16 c か
1491	S A-13	染付	鉢	_			_		自	紺	紺	肥前	混入 1650~70年代
1492	Ⅲ層	陶器	甕	_		-			暗灰	暗茶褐	暗茶褐	薩摩	淡黄白自然釉 17 c 代
1493	Ⅲ層	陶器	m	_	49	_		_	淡灰褐	無釉:暗褐	淡灰褐	唐津系	内外面:目積痕、底 :糸切り、17c前
1494	Ⅲ層	青磁	ш	_	_		_	_	自	淡オリーブ	淡オリーブ	肥前	口唇: 辰砂、(茶褐~ 赤褐)、1630~40年代
1495	Va層上面	染付	ш	_	78		_	畳付き	白	紺	紺	肥前	鉄分やや多い 17 c 中
1496	Ⅲ層	染付	碗		_	_		_	自	透明	透明	肥前系	18 c 末~19 c 前
1497	Ⅲ層	染付	碗か鉢	-		_	壮丹唐草文		白	紺	紺	肥前	17c末~18c初
1498	Ⅲ層	染付	蓋物	l —	l —	-		口縁部	乳白	紺	紺	肥前系	18 c 後
1499	Ⅲ層	染付	蓋物	-	l —	-	_	口縁部	白	紺	乳白	肥前系	18 C 後
1500	Ⅲ層	染付	碗						白	透明	透明	肥前系	18 c 後~1810年代

表31 出土遺物観察表(31) 石器・石製品(1)

No	出土地	器種	挝	量(mm))	重さ	石材	
	шле	tor IE	長さ	幅	厚さ	(g)	41 40	VHI 77
第83図 1501	S K -03	石鏃	14	15	4	-	黒曜石	
1502	(1041)	石鏃	15	17	3	1	黒曜石	
1503	S A -06	石鏃	21	16	3	1	黒曜石	
1504	Ⅲ層	石鏃	19	(15)	5		チャート	
1505	S A -02	石鏃	17	16	4	1	黒曜石	
1506	III~IV a層	石鏃	17	(14)	3	_	黒曜石	
1507	S K-06	石鏃	22	15	3	1	黒曜石	
1508	S.K-03 下層	石鏃	20	15	3		黒曜石	
1509	S A -06	石鏃	19	15	5	1	黒曜石	
1510	IV a層	石鏃	18	(12)	3		チャート	
1511	Ⅲ層	石鏃	(14)	13	3	_	黒曜石	
1512	Ⅲ層	石鏃	19	15	3	1	黒曜石	
1513	Ⅲ層	石鏃	19	(11)	4	_	黒曜石	
1514	S A -02	石鏃	19	(12)	3		黒曜石	
1515	S A-06	石鏃	21	(15)	3		黒曜石	
1516	S A -09	石鏃	20	17	3	1	黒曜石	
1517	S D-05	石鏃	22	(14)	4		黒曜石	
1518	□層	石鏃	28	17	5	_	黒曜石	
1519	S A -22	石鏃	(19)	12	3	_	黒曜石	
1520	S A -01	石鏃未製品				_		
		,	(15)	17	4	-	黒曜石	
1521	□層	石鏃	(14)	19	3	-	黒曜石	
1522	Ⅲ層	石鏃	(15)	(13)	4		黒曜石	
1523	Ⅲ層	石鏃	(13)	15	3	_	黒曜石	
1524	S K -03	石鏃	(17)	(14)	4	_	黒曜石	
1525	S A -15	石鏃	(17)	(19)	4	_	黒曜石	
1526	S A -11	石鏃	(23)	(20)	4	-	黒曜石	
1527	Ⅲ層	石鏃	(24)	(16)	3	-	黒曜石	
1528	IV層	石鏃	(20)	(14)	4	mannen	黒曜石	
1529	Ⅲ層	石鏃	28	17	4	1	黒曜石·	
1530	Ⅲ層	石鏃未製品	22	20	6	2	黒曜石	
1531	(1257)	石鏃未製品	21	19	6	2	黒曜石	
1532	Ⅲ層	石鏃未製品	19	(14)	4		黒曜石	
1533	S A -02	石鏃未製品	21	18	6	2	黒曜石	
1534	S A -02	石錐か?	22	16	4	1	黒曜石	
1535	S A-22	石錐	23	14	8	2	黒曜石	
1536	Ⅱ層	石錐	22	16	7	2	黒曜石	
1537	S D-05	石匙	39	16	6	3	黒曜石	
1538	Ⅲ層	石匙	43	(48)	6	14	チャート	
1539	(1311)	石斧刃部片	33	(42)	5	10	硬砂岩?	
1540	S D-05	石斧片再加工?	36	42	9	17	硬砂岩?	
1541	(691)	石斧片再	36	43	7	12	不明	
1542	四層	加工石斧片	(45)	36	13	32	蛇紋岩	
第84図		スクレイ					安山岩	
1543	□層	パースクレイ	31	47	10	17		
1544	□層	パースクレイ	31	66	13	24	安山岩	
1545	S D-04	パー・ スクレイ	55	76	13	43	凝灰質珪岩	
1546	S D -04	ノペ	44	51	7	19	黒色頁岩	
1547	S A-15	抉り入り 石器	62	29	8	15	砂岩	
1548	S A -02	石錘	28	32	10	12	砂質頁岩	切目
1549	S K-06	石錘	30	33	8	12	粘板岩	切目
1550	⟨281⟩	石錘	29	(34)	8	10	緑色片岩系	切目
1551	排土	石錘	27	33	10	12	砂岩系	切目
1552	S D-02	石錘	30	34	9	12	緑色片岩	切目

	. (31		11100		7文11 (1											
	長さ	量(mm) 幅) 厚さ	重さ (g)	石 材	備考		No	出土地	器種	長さ	∈量(mm 幅) 厚さ	重さ (g)	石材	備考
	14	15	4	_	黒曜石			1553	S A -02	石錘	34	44	12	23	頁岩系	切目
	15	17	3	1	黒曜石			1554	S A -15	石錘	31	38	7	15	緑色片岩?	切目
	21	16	3	1	黒曜石			1555	Ⅲ層	石錘	39	38	14	28	緑色片岩	切目
	19	(15)	5	-	チャート			1556	S A -02	石錘	36	40	9	17	緑色粘板岩	切目
	17	16	4	1	黒曜石			1557	S A-02	石錘	42	44	16	36	頁岩系	切目
	17	(14)	3	_	黒曜石			1558	排土	石錘	40	43	13	32	粘板岩	切目
	22	15	3	1	黒曜石		9	1559	S A-04	石錘	39	42	11	22	頁岩	切目
	20	15	3		黒曜石			1560	S D-03	石錘	44	47	16	46	粘板岩	切目
	19	15	5	l	黒曜石			1561	排土	石錘	41	45	19	52	粘板岩	切目
	18	(12)	3		チャート			1562	S A-02	石錘	48	48	14	35	頁岩系	切目
	(14)	13	3	_	黒曜石			1563	Ⅲ層	石錘	45	48	16	51	緑色片岩	切目
	19	15	3	1	黒曜石			1564	111層	石錘	28	35	10	15	黒色頁岩	打欠
	19	(11)	4	_	黒曜石			1565	Ⅲ層	石錘	62	66	14	88	緑色片岩	中央:紐ズレ痕
	19	(12)	3		黒曜石			1566	111層	石錘	68	75	23	150	頁岩	両面中央: 組ズレ痕
	21	(15)	3		黒曜石			1567	Ⅲ層	石錘	43	49	10	29	緑色片岩	打欠
	20	17	3	1	黒曜石			第85図	S A -02	石錘	39	43	16	38	溶結凝灰岩	打欠
	22	(14)	4		黒曜石			1568 1569	山層	石錘	46	41	10	21	緑色片岩	切目
	28	17	5	_	黒曜石			1570	Ⅲ層	石錘?	44	45	8	24	緑色片岩	打欠
	(19)	12	3	_	黒曜石			1571	S A -02	石錘	42	49	18	41	頁岩?	打欠・紐 ズレ痕
1	(15)	17	4	_	黒曜石			1572	S A -02	石錘	38	55	12	32	X 1 .	スレ狼 打欠
н	(14)	19	3	_	黒曜石			1573	S D -03	石錘	53	69	19	103	緑色凝灰	打欠
	(15)	(13)	4		黒曜石			1574	S A -02	石錘	65	78	15	118	質砂岩 緑色粘板岩	打欠
	(13)	15	3		黒曜石			1575	Ⅲ層	石錘	68	59	14	58	緑色片岩	打欠
	(17)	(14)	4	_	黒曜石			1576	Ⅲ層	石錘	64	55	17	76	緑色片岩	打欠
	(17)	(19)	4	_	黒曜石			1577	Ⅲ層	石錘	82	48	13	79	緑色片岩	切目
	(23)	(20)	4	l _	黒曜石			1578	S A -06	石錘	71	32	21	73	緑色片岩	打欠
	(24)	(16)	3		黒曜石				SA-00		74	42	12	51		打欠
	' '							1579		石錘						
	(20)	(14)	4		黒曜石			1580	S D-04	石錘	95	54	19	93	砂質頁岩	打欠
	28	17	4	1 2	黒曜石・			1581	S A -01	石錘	91	55	13		頁岩系	打欠
		20	6		黒曜石			1582 第86図	Ⅲ層	石錘 石斧転用	108	50	20	150	緑色片岩系	打欠
11	21	19	6	2	黒曜石			1583	Ⅲ層	刃器 扁平打製	(60)	47	26	95	硬砂岩	
	19	(14)	4	_	黒曜石			1584	S K -03	石斧	(71)	48	12	59	輝石安山岩	
	21	18	6	2	黒曜石			1585	(691)	扁平打製 石斧	(61)	54	21	87	砂岩	
?	22	16	4	1	黒曜石			1586	Ⅲ層	石斧	(73)	57	29	162	蛇紋岩	
	23	14	8	2	黒曜石			1587	Ⅲ 屠	石斧	(102)	66	27	356	硬砂岩	
	22	16	7	2	黒曜石			1588	Ⅲ層	石斧未製品	122	53	26	195	安山岩	
	39	16	6	3	黒曜石			1589	表採	石斧	(72)	63	28	177	砂岩	
	43	(48)	6	14	チャート			1590	S D-05	石斧	108	50	34	292	硬砂岩	
中耳	33	(42)	5	10	硬砂岩?			1591	Ⅲ層	石斧	79	40	21	92	硬砂岩系?	
	36	42	9	17	硬砂岩?			1592	⟨1829⟩	石斧	(61)	(48)	42	183	硬砂岩	
乒	36	43	7	12	不明			1593	I層	石斧	(92)	58	16	118	蛇紋岩	
	(45)	36	13	32	蛇紋岩			1594	Ⅲ·Ⅳa層	石斧	(61)	49	33	148	硬砂岩?	
1	31	47	10	17	安山岩			1595	表採	石斧	(114)	71	38	360	砂岩	
1	31	66	13	24	安山岩			1596	表採	石斧転用 刃器 工祭転用	(74)	57	33	258	硬砂岩?	
1	55	76	13	43	凝灰質珪岩			1597	表採	石斧転用 刃器	114	57	37	370	硬砂岩	
1	44	51	7	19	黒色頁岩			第87図 1598	S A -13	円形打製 石器?	69	(69)	13	75	石英	
)	62	29	8	15	砂岩			1599	Ⅲ層	円形打製 石器	83	81	17	178	溶結凝灰岩	
	28	32	10	12	砂質頁岩	切目		1600	S A -06	円形打製 石器	(77)	(35)	11	33	溶結凝灰 岩?	両面縁 辺加工
	30	33	8	12	粘板岩	切目		1601	Ⅲ層	刃器	72	70	20	110	不明	
	29	(34)	8	10	緑色片岩系	切目		1602	排土	石斧転用 すり石	87	49	33	233	硬砂岩	
	27	33	10	12	砂岩系	切目		1603	S D-04	すり石	114	86	46	700	砂岩	
	30	34	9	12	緑色片岩	切目		1604	Ⅲ層	石斧転用 すり石	97	51	39	298	硬砂岩?	

表32 出土遺物観察表(32) 石器・石製品(2)

			Ý	去量(mm)	重さ		
No	出土地	器種	長さ	幅	厚さ	(g)	石材	備考
第87図 1605	Ⅲ層	すり石	79	83	42	328	溶結砂岩?	
1606	Ⅲ層	すり石?	61	59	24	126	溶結粗細 粒砂岩?	
1607	S A-07	すり石	107	81	56	690	溶結凝灰 岩?	
1608	I 層	すり石	(112)	118	73	1310	溶結凝灰 岩?	
第88図 1609	S D-05	すり石	(59)	96	65	575	粗粒砂岩?	
1610	S A-15	すり石	102	122	48	740	凝灰質砂岩	
1611	Ⅲ層	すり石	(74)	101	54	605	溶結凝灰 岩?	
1612	排土	すり石	(67)	103	53	435	溶結粗細 粒砂岩	
1613	排土	すり石	104	99	52	695	溶結凝灰岩	
1614	Ⅲ層	すり石	(83)	107	51	634	溶結凝灰 岩?	
1615	S A-02	すり石	56	54	34	128	溶結粗細 粒砂岩	
1616	Ⅲ層	すり石	(51)	(89)	57	296	閃緑岩	
1617	Ⅲ層	すり石	86	73	41	310	溶結凝灰岩	
1618	排土	すり石	(59)	97	50	430	溶結凝灰 岩?	
1619	Ⅲ層	すり石	137	66	57	710	溶結砂岩	
第89図 1620	S D-04	すり石	84	85	54	460	溶結粗細 粒砂岩?	
1621	Ⅲ層	すり石	(63)	93	50	487	溶結凝灰 岩?	
1622	Ⅲ層	すり石	93	101	48	579	溶結粗砂岩	
1623	Ⅲ層	すり石	(84)	87	49	515	砂岩	
1624	Ⅲ層	すり石	114	92	58	915	粗粒砂岩	
1625	Ⅲ層	すり石	122	109	57	1010	溶結凝灰岩	
1626	S D-05	すり石	124	103	40	790	粗粒砂岩?	
1627	I層	すり石	(48)	(109)	61	370	粗粒砂岩?	
第90図 1628	表採	すり石	92	107	41	720	溶結粗細 粒砂岩	
1629	Ⅲ層	すり石	112	102	51	930	粗細粒砂岩	
1630	S A-15	敲き石	65	61	57	296	石英	
1631	Ⅲ層	石斧転用 敲き石	82	55	40	322	硬質細粒 砂岩?	
1632	□層	石斧転用 敲き石	(84)	52	35	243	硬砂岩	

			ì	去量(mm)	雷さ		
No	出土地	器種	長さ	幅	厚さ	重さ (g)	石 材	備考
1633	Ⅲ層	敲き石	80	78	28	270	石英	
1634	Ⅲ層	敲き石	(52)	73	58	224	溶結凝灰岩	
1635	Ⅲ層	石包丁未 製品	(60)	38	9	21	緑色片岩	
1636	皿層	砥石	(83)	60	15	150	砂岩	
1637	Ⅲ層	砥石	87	42	25	150	砂岩	4 面使用
1638	S K -03	砥石	(77)	(14)	8	10	砂質粘板岩	
1639	S K -08	砥石	69	(74)	(69)	396	硬砂岩?	
第91図 1640	S D-01	砥石	299	121	45	1980	砂岩	
1641	Ⅲ層	砥石	(112)	75	55	759	硬砂岩	
1642	⟨393⟩	砥石	132	47	24	322	砂岩	
1643	皿層	砥石	(32)	(24)	8	13	細粒砂岩	
1644	PP	石鍋	241		_		滑石	
1645	Ⅲ層	滑石製品	(25)	(16)	6	4	滑石	
1646	Ⅲ層	温石?	117	59	21	180	滑石	
1647	⟨156⟩	石鍋			_	_	滑石	
1648	皿層	台石	(313)	(310)	121	_	溶結凝灰岩	
1649	Ⅲ層	台石	291	363	93		溶結凝灰岩	
第92図 1650	I層	石皿	316	310	141		溶結凝灰岩	
1651	S A -01	台石	324	332	100	_	溶結凝灰岩	
1652	'S A-11	台石	330	376	99		溶結凝灰岩	
1653	S A-12	台石	213	151	69		溶結凝灰岩	
1654	Ⅲ層	台石	137	81	32	580	溶結凝灰岩	
第93図 1655	S D-04	石皿	311	304	100	_	溶結凝灰岩	
1656	S A-01	台石	227	283	82	_	溶結凝灰岩	
1657	S K-10	石皿	315	313	115	_	溶結凝灰岩	
1658	S D-05	石皿	316	(220)	41		溶結凝灰岩	
1659	S A -06	台石	342	374	72		溶結凝灰岩	
1660	S D-04	台石	217	337	88		溶結凝灰岩	

第6節 まとめ

土壌堆積が安定して居住に適した縄文時代後期、竪穴住居を欠くものの、土坑などを伴う集落が営まれる。背後の霧島山系での狩猟や河川での漁撈を営む生業で、長期の定住をしなかったようである。 古墳時代中期~後期、竪穴住居群は数回の建て替えをしている。住居は弧状に配置したようで、 居住区の東側に片寄る。覆土から若干の土師器等が出土したが、原位置を保っている良好な一括資料といったものは皆無に等しく、さらには耕作によって撹乱が著しいことから、先後関係も不明瞭であったことは残念であった。

7~9世紀前半は、市内諸遺跡と同様に断絶する。

元禄6年(1693)に改築された弁財天社の梁文には、性空上人(910~1007)が水不足救済のために地面に楊枝を刺すと清水が湧き出た由の伝承がある。これは前章掲載の弁財天遺跡の南西部の水源のことであるが、当水源は下流の西長江浦~灰塚・大溝原・永山地区123町歩の田圃を灌漑している。馬場田遺跡で検出した箱掘りの05号溝は9世紀後半の掘削と推定され、この頃すでに灌漑が始まったようであるが、上記伝承との年代差が殆ど無いことは注目され、灌漑起源の伝承とも受け取れる。

集落は中世末まで継続し、近世以降は山際~丘陵へ移転して耕地が拡大されたと思われる。

註

(1) えびの市教育委員会 1997 『田代地区遺跡群上田代遺跡・松山遺跡・竹之内遺跡・妙見原遺跡』 えびの 市埋蔵文化財調査報告書第20集

第6章 水流遺跡

第6章 水流遺跡

第1節 はじめに

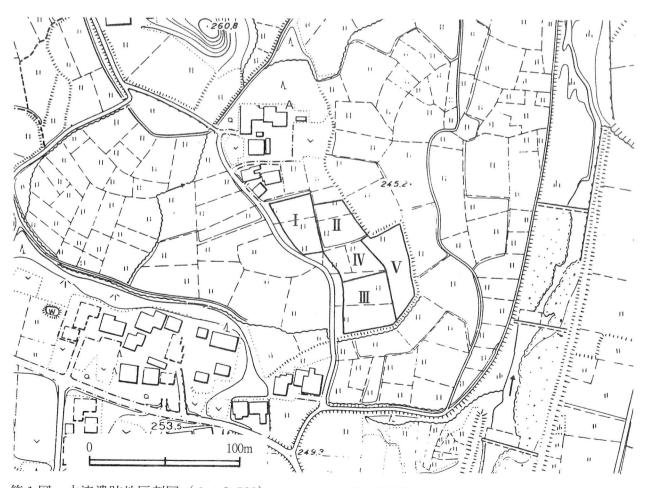
水流遺跡は、えびの市大字西長江浦字水流に位置した、標高247mの氾濫原に立地する。馬場田遺跡から南東へ200m程の微高地端部にあたり、試掘調査で突帯文土器等が出土したことから、平坦面5,000㎡を調査対象とした。

調査区は便宜的に5区に分け、I~V区とした。

第2節 基本的層序

層序は前掲遺跡に準じ、Ⅱ層は近世以降、Ⅲ層は黒灰色土系の中世、Ⅳa層は黄褐色微砂質土とした。Ⅲ層は開墾による削平が著しく、Ⅴ区では前面削失、他は10~20cm遺存していた。Ⅳa層は10~20cmの厚さで、遺物も殆ど含まない。Ⅳb層以下は、旧河川による氾濫堆積で、人頭大~径1m前後の巨礫を大量に含む砂質土である。

Ⅳa層が堆積すると安定した面になり、遺構面になる。



第1図 水流遺跡地区割図 (1:2,500)

A:山の神 祭祀堂

第3節 縄文~弥生時代の調査

遺構は発見されなかったが、縄文時代晩期の粗製深鉢(第6図-1・2)や黒色磨研(4)・突 帯文土器(5~9)などが出土し、突帯文期に集落が氾濫原付近に移動してきたことを推測させる。 弥生土器は少ないが、石包丁の破片と思われる石器(34)が出土している。

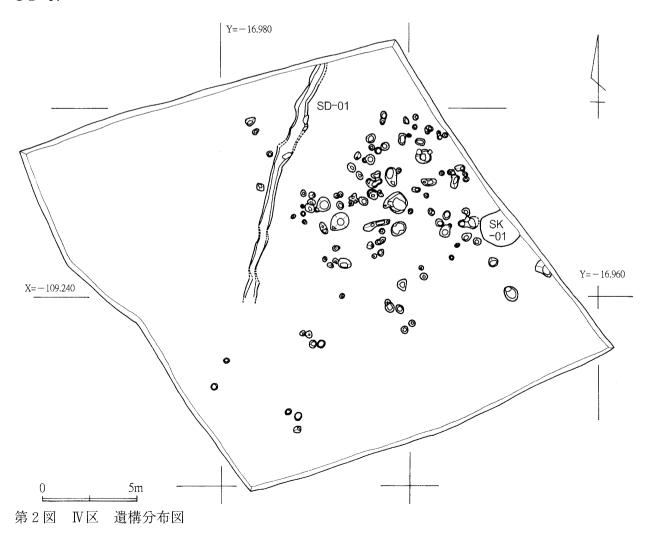
第4節 古代~中世

IV区 (第2図) において、Ⅲ層を覆土とする土坑 1基 (SK-01)、溝状遺構 1条 (SD-01)、柱 穴100個あまりを検出した。柱穴は、直径20~70cm・深さ10~20cmで浅いものが多く、北東寄りに 密集する。 2間~3間のやや東向きの建物数棟がありそうであるが、復元は困難である。

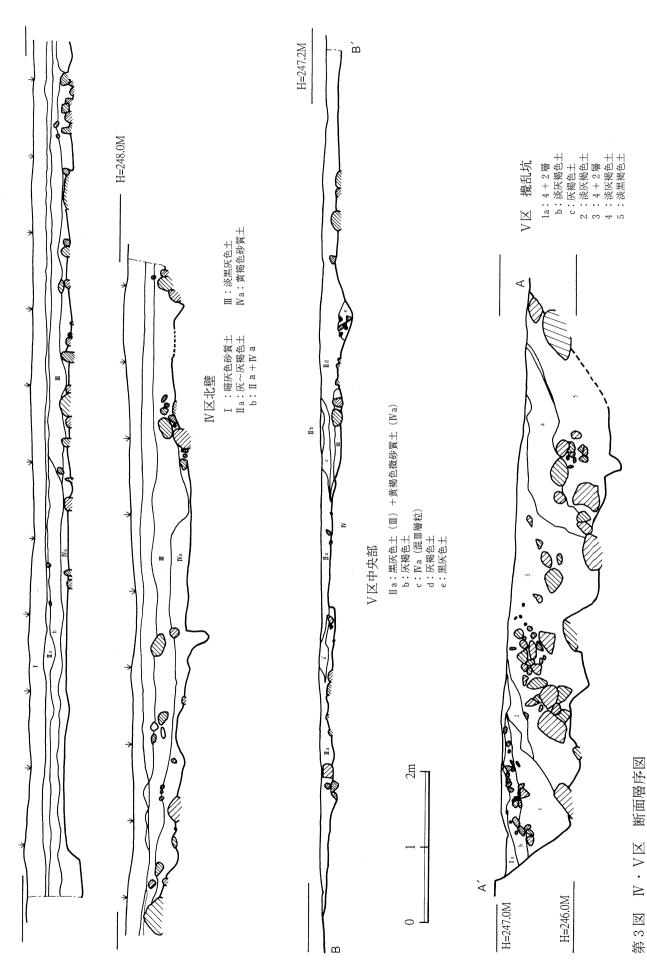
SK-01 (第4図)

直径2m内外の不整円形を呈し、深さ20~40cmの土坑である。底面には礫が露呈する。機能は不明、出土遺物は無い。

S D-01



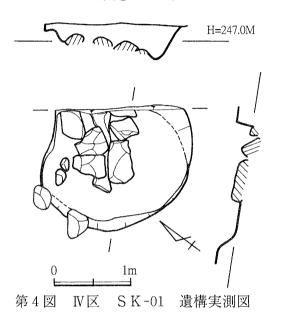
— 236 —



— 237 —

幅50~90cm、深さは13~22cmの溝状遺構で、南から北北東へ流れる。

遺構に伴う遺物は稀であるが、9世紀代の坏(24~27)や12~13世紀の国産陶器(28・29)、白磁(第7図-35)、青磁(36~38)、青花(39~42)も出土しており、中世末まで小規模な集落が営まれていたと推定される。



第5節 近世以降

集落は廃絶し、生産地へと転換する。

遺構は水田畦畔と水路に限られ、水田面造成と土砂 流失防止のための石垣築造によって、広い水田面が確 保される。

石列畦畔や石垣の築造年代は判然としないが、17~18世紀の陶磁器類(45~52)が出土しており、現代に至るまで水田が営まれていたと思われる。

第6節 まとめ

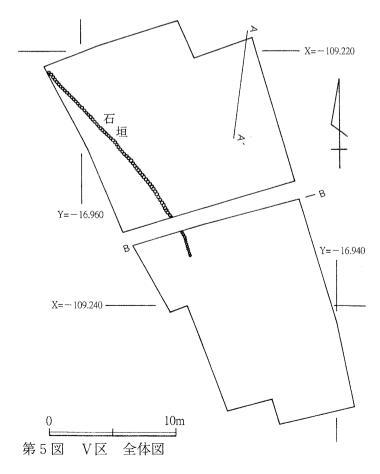
当遺跡は氾濫原に隣接し、基底面には巨礫を多く含む土石流が堆積しており、居住にはあまり適さなかっ

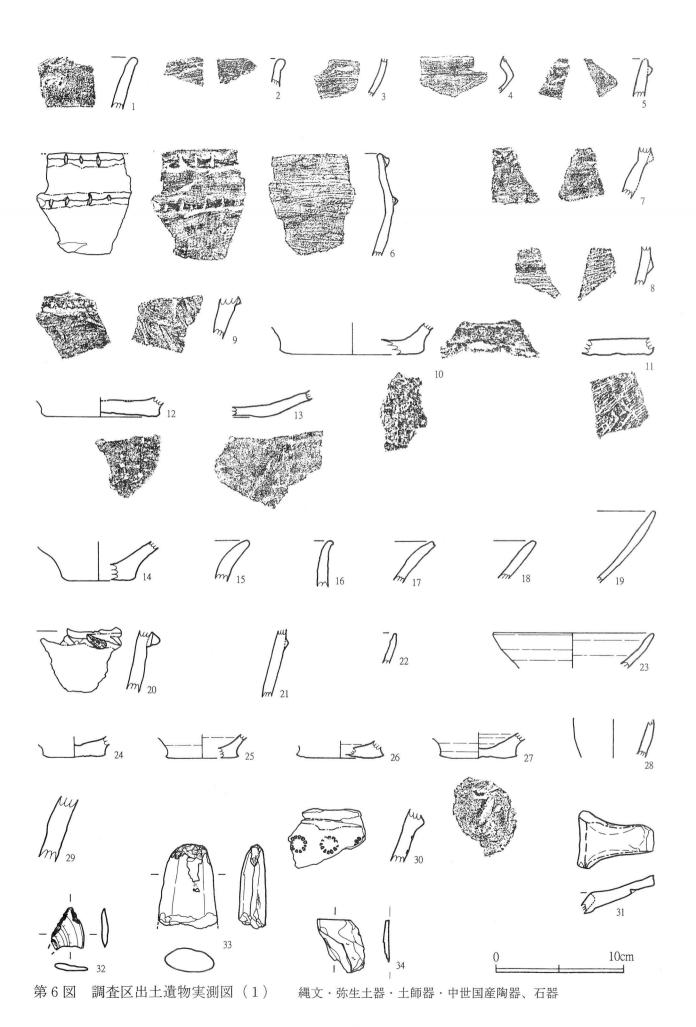
た地であったようである。

縄文時代晩期(弥生時代早期)の突帯 文土器の出土は、近辺に当該期の集落や 水稲もしくは陸稲の耕作地が包蔵してい たかもしれないが、未発見に終わった。

7~9世紀前半は断絶し、その後、中世末まで集落が営まれるのは他遺跡と同様である。ただ当遺跡の建物は限られた範囲でしか検出されず、居住区以外はすでに耕地化していたのかもしれない。具体的に水田関連の遺構(石垣など)が現れるのは近世以降と推定される。

調査区の北北東に位置する民家の一角には「山の神」祭祀堂があり、御神体は江戸後期の柄鏡である。左横には5世紀代と思われる獣形鏡1面(第7図-D)と「光長作」銘の江戸後期の松竹梅鶴亀

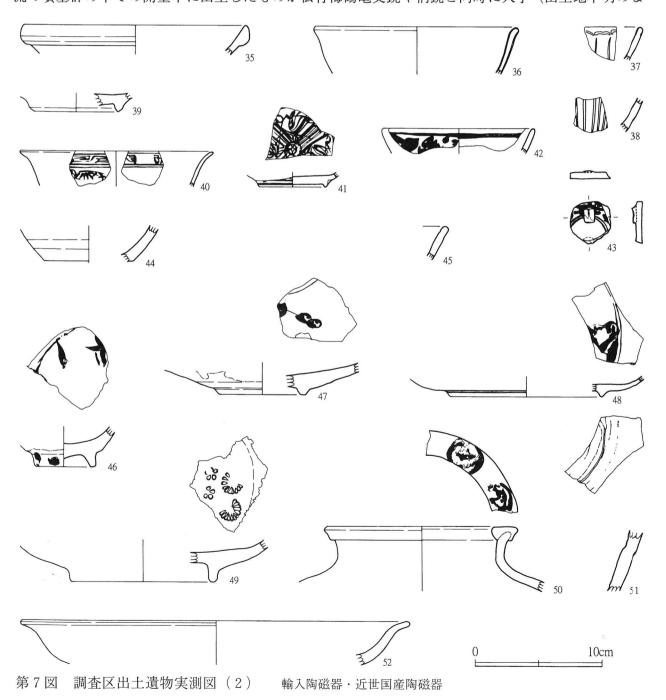


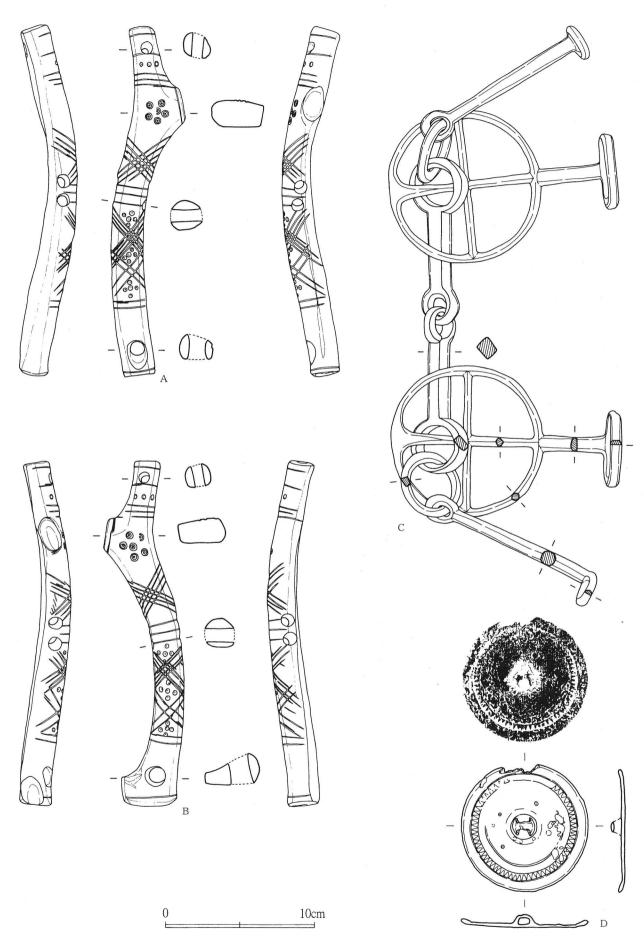


文鏡1面を奉納した小祠があり、右横の木箱には十字轡1点(C)、黒漆塗り木製鞍、鹿角製面懸1対(A・B)、鉄製武器模造品(三又鉾・鐔)が無造作に置いてある。

獣形鏡は直径8.5cm、厚さ2mm前後、重さ86gである。鋳上がりが悪く、文様が不鮮明である。外区には赤色顔料の痕跡があり、墳墓から出土した可能性が高い⁽¹⁾。鹿角製面懸は、長さ23.3cmの鹿角に、2条と4条の線彫を格子目にしたり、直径2.5~5mmの円文を輪花状に配置した文様を施し、中央部に2孔と両端部合計4孔が穿たれている。これらの殆どは、江戸後期の一括祭祀具と推定される。

当地点において、古墳時代の墳墓があったと考えられないため、所有者もしくはその縁者が、下流の墳墓群の中での開墾中に出土したものか松竹梅鶴亀文鏡や柄鏡と同時に入手(出土地不明のま





第8図 山の神 祭祀具 実測図

ま)した可能性がある。

註

(1) 柳沢一男先生の御教示による。

表1 出土遺物観察表(1) 土器

衣 1	山土退物街	九尔八	1/ 1	L 石子									
No	出土地	種 類	器 種	法	量(r	nm)	調	整	胎土	焼成	色	調	備考
	ഥ그-76	1里 枳	66 1里	口径	底径	器高	外 面	内面	胎 土	75七 八八	外 面	内 面	/順专
第6図	Ⅱ層	縄文土器	深鉢				ナデ	工具ナデ	微砂少量	良	褐~褐灰	淡橙黄~淡茶灰	
2	V区Ⅱ・Ⅲ層	縄文土器	深鉢				条痕	条痕	良	良	淡黄褐	淡黄	
3	∇区Ⅱ層	縄文土器	鉢	_	_	_	丁寧ミガキ	半ミガキ	良	良好	黒褐	黒褐	
4	Π区	縄文土器	鉢			*********	ミガキ	ミガキ	良	良	淡黒褐	淡黑褐	
5	Ⅳ区Ⅱ層	縄文土器	深鉢	_					良	ややあまい	暗茶褐	淡黄白	
6	N⊠	縄文土器	深鉢	-	-		半ミガキ	ミガキ	微砂少量	良	褐~黄褐	淡灰~淡黄褐	
7	V区II層	縄文土器	深鉢	_			工具ナデ	工具ナデ	良	ややあまい	淡橙黄	淡灰黄	
8	V区II層	縄文土器	深鉢	er-roses.		_	条痕	条痕状	微砂少量	ややあまい	淡黄褐	淡黄	
9	V区II層	縄文土器	深鉢	_	_		工具ナデ	工具ナデ	角閃石少量	良	褐~褐灰	淡黄	
10	V区Ⅱ層	縄文土器	深鉢	arranan	113	hannah	ナデ	ナデ	角閃石少量 微砂少量	良	茶褐~淡黄褐	淡黑灰~淡黄褐	
11	V区Ⅱ層	縄文土器	深鉢		_		ナデ	ナデ	角閃石少量	良	黄褐	淡灰褐	
12	Ν区	縄文土器	深鉢	_	92		ナデ	ナデ	微細砂少量	良	淡黄褐~褐	褐~灰褐	
13	Ν区	縄文土器	深鉢				工具ナデ 〜粗ナデ	工具ナデ	微細砂やや多い 角閃石少量	良	淡黄褐	淡黄灰~淡灰褐	
14	IV⊠	弥生土器	壷		58	-	ナデ	ハケ	微砂少量	良	桃褐~黄褐	淡灰~灰	
15	Π区	土師器	壷	and the same of th		_	ハケ	ナデ	良	良	淡褐~淡橙	淡灰黄~暗茶褐	
16	IV⊠	土師器	甕	_	_		ハケ	ハケーナデ	微砂多量	良	淡茶褐~淡黄	淡橙黄~淡茶褐	
17	Π区	土師器	甕				ナデ	ナデ	微細砂少量	良	淡黄褐~褐	褐~淡茶褐	
18	皿区	土師器	鉢?	-	_		ミガキ状	ミガキ	良	良	淡黄褐	淡褐~灰褐	
19	IV区II層	土師器	鉢				ミガキ	ナデ	良	ややあまい	黄褐~淡橙褐	淡黄褐	
20	Π区	土師器	蹇				ハケ	ハケ	微砂多量	良	淡灰褐~灰褐	暗灰褐	
21	Π区	土師器	甕	_		_	ナデ	ハケ	微細砂少量	ややあまい	暗茶褐	淡褐	·
22	V区Ⅱ・Ⅲ層	土師器	甕				ナデ	ナデ	微砂少量	良	橙褐	灰~淡黒灰	
23	Ⅲ区	土師器	坏	126	_	_	ナデ	ナデ	良	良	淡橙褐	淡黄褐	ややひずみ
24	III	土師器	坏	_	48	_	ナデ	ナデ	良	良	淡黄褐	淡黄褐	外底:ヘラ 切り
25	V区	土師器	坏	_	57	_	ナデ	ナデ	良	良	淡褐	淡褐	外底:ヘラ 切り
26	IV⊠	土師器	坏		68	_	ナデ	ナデ	良	良	淡黄~淡灰黄	淡黄~淡灰黄	
27	Ⅱ区	土師器	坏	_	62		ナデ	ナデ	微砂茶褐色粒 少量	良	黄褐	黄褐~茶褐	
28	IΙ区	陶器	小壷				ナデ	ナデ	微砂少量	良好	淡灰	淡赤褐	外面:自然釉? 被熱
29	IΙ区	陶器	壷、甕類				ナデ	ナデ	微細砂少量	堅緻	淡灰褐	橙褐	
30	IΙ区	軟質陶器	火鉢	_			ナデ	ナデ	微砂少量	良好	暗灰褐~淡茶灰	暗灰褐~淡茶灰	外面:スタ ンプ文
31	IV⊠	土師質土器	焙烙	_	_	_	ナデ	ナデ	精良	良	茶褐	淡褐	把手

表 2 出土遺物観察表 (2) 土器

No	出土地	器種	法 量 (mm)			重さ	7- ++	備考
NU	114.17.76	66 1里	長さ	幅	厚さ	9	石材	備考
第 6 図 32	Ν⊠	石鍬	(17)	(12)	2	_	チャート	
33	IV⊠	石斧	(67)	(45)	19	99	蛇紋岩	
34	Π区	石包丁	42	32	5	8	粘板岩	

表3 出土遺物観察表(3) 輸入陶磁器・国産陶磁器

No	11. 1. He	種 類	器種	法	量(n	nm)	316 ##	effe II.	11/16	釉	調	-411	A. Ch. Miles
	出土地	種類	器種	口径	底径	器高	調整・紋様	露胎	胎土色	外面	内面	産地	年代・備考
第7図 35	Ⅱ区	白磁	碗	174		_	Partiere	_	乳白	乳白	乳白	中国	12∼13 C
36	IV区II層	青磁	端反り碗	157	_		Manham		淡灰	淡オリーブ灰	淡オリーブ灰	龍泉窯	14 C 後~15 C 中
37	IV⊠	青磁	碗	_			剣先蓮弁	_	淡灰	オリーブ灰	オリーブ灰	龍泉窯	15c中~16c初
38	II 層	青磁	碗			_	剣先蓮弁		白	オリーブ灰	オリーブ灰	龍泉窯	15c中~16c初
39	Ν区	青磁	Ш	_	65	_	_	V*******	淡灰褐	淡オリーブ灰	淡オリーブ灰	龍泉窯	14 c 後~15 c 中
40	V区II層	青花	碗	149		_	mana.		白	紺	紺	景徳鎮	15 C 後
41	Π区	青花	Ш		52		十字花文	marries .	自	紺	紺	景徳鎮	16 c 前~中
42	V区Ⅱ層	青花	碗	118	-		_	_	乳白	紺	紺	福建	16 C 後~17 C 初
43	IV⊠	染付	四 円形加工品	_		nema.			自	紺	紺	肥前	未製品?
44	IΙ区	陶器	天目茶碗	_	69		_	外面下半: 淡灰泊	濁白	暗茶褐	暗茶褐	瀬戸美濃	16 c 代
45	Ⅳ区II層	陶器	Ш		_		_	Man-America.	茶褐	乳白	乳白	肥前	17c前
46	IΙ区	染付	Ш	_	48		_	外面下半	淡褐	黒褐~暗茶褐	紺・透明	肥前	17 c 前 外面:鉄釉
47	IΙ区	陶器	鉄絵皿	_	67		_		橙褐~茶褐	乳白	鉄絵は黒褐	唐津	1590~1610年代
48	Π区	染付	m	_	121		Value	_	白	透明	透明	肥前	1650~1660年代
49	N⊠	銅緑釉陶器	ш	_	111		_	畳付き	淡灰褐	青緑	青緑	肥前	1630~60年代
50	IΙ区	陶器	壷類	146			accorden	口縁部: 紫褐~暗赤褐	暗赤褐~ 暗紫灰	黒褐	黒褐	薩摩	17c前
51	Π区	陶器	壷、甕類	-				_	暗紫褐	茶灰~暗茶褐	茶灰~暗茶褐	肥前	17 C 後以降
52	Π区	青磁	m	300		-	_		乳白	オリーブ灰	オリーブ灰	肥前	16 C 後~17 C



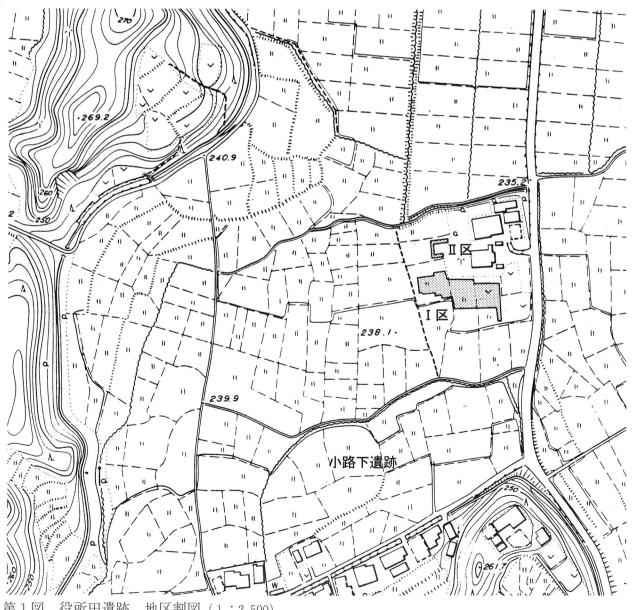
第7章 役所田遺跡

第7章 役所田遺跡

第1節 はじめに

役所田遺跡は、えびの市大字西長江浦字役所田に位置した、標高238mの微高地に立地する。こ の微高地は、西~北西部と南部(小路下遺跡との中間)の谷で挟まれた、南北90m・東西約150m の広さと推定される。明治時代までは周辺農家の収穫米を集めた倉庫群があったらしく、地名の由 来を物語る。東の低地では近代に至るまで氾濫が繰り返されていたようで、砂と粘土の互層が堆積 している。微高地の北東部にある民家の南西部の畑には、縄文時代後晩期の土器が多数散布してい た。

発掘調査は当初は550㎡ (I区の東側2/3)を対象としたが、膨大な遺物が表土直下から出土 することから西へ270㎡ほど拡張した。また、北側の状況を確認するための試掘調査を行なったが(Ⅱ 区)、表土下すぐに遺物包含層に当たり、その上面で止めた。



第1図 役所田遺跡 地区割図 (1:2,500)

第2節 基本的層序

層序は既掲遺跡に順ずるが、Ⅲ層が細分される。Ⅲa層は弥生時代中期~古墳時代、Ⅲb層は縄 文後晩期であり、本来は、Ⅲa層の上に古代~中世の黒灰色土、中世後半の茶褐色土が堆積してい たと思われるが、全て削失している。

遺構面を形成するⅣ層は1m以上堆積しているが、遺物を殆ど含んでいないことから、Ⅳ層の掘り下げはしていない。

第3節 弥生時代以降の調査

西側に近接して3棟の竪穴住居(SA-02はSK-23の上面で検出)や土壙墓1基(SK-01)、掘立柱建物跡1棟ほか柱穴180基あまりを検出した。

SK-01 (第4図)

長さ1.78m・幅0.78~0.87mの長方形を呈し、深さは20~24cmを測る。主軸は北向きで、副葬品は無い。覆土から、縄文土器のほか糸切り底の土師器片が出土しているが、近世の壙墓と思われる。

S B-01

梁行2間(3.8m)、桁行3間(5.8~5.9m)の東西方向の建物である。柱痕跡は確認できなかったが、柱穴の直径は40~55cm、深さ10~20cmを測る。

年代を示す遺物は出土していないが、覆土の土質から、近世の遺構と思われる。

PP-01 (第4図)

長径32cm・短径25cmの不整楕円形を呈し、深さ32~38cmを測る柱穴である。中位から下位にかけて、土師器の甕片が入っていた(第136図-**2569**)

SA-01 (第5図)

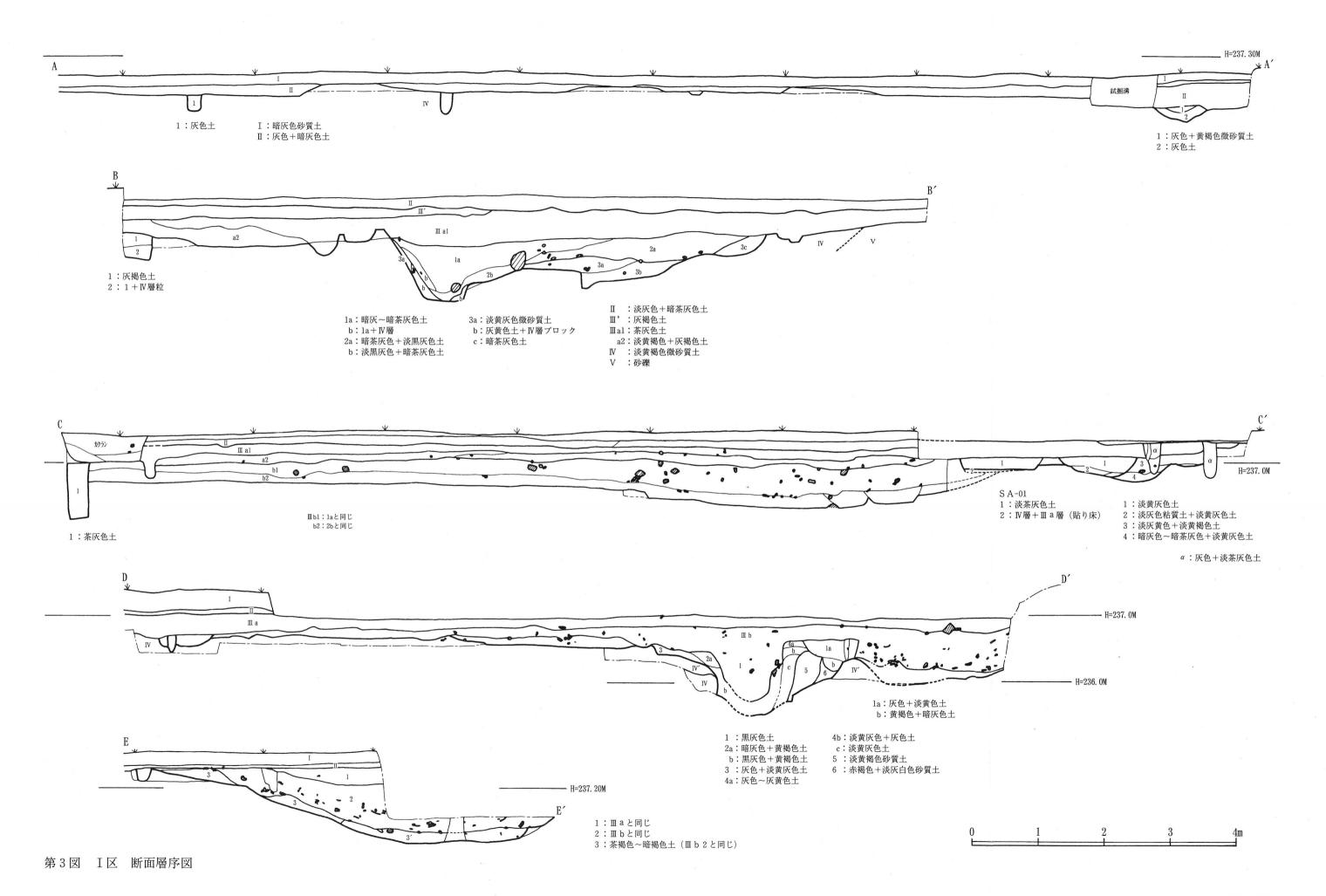
柱穴群よりも70cm前後高い面で検出された、1辺3.7m前後の方形住居である。主柱穴は4本と思われ、直径30cm前後、深さ20~30cmを測る。炉跡は無く、西側には縄文時代の土坑(S K -25)が東側には中世の土坑(S K)がある。

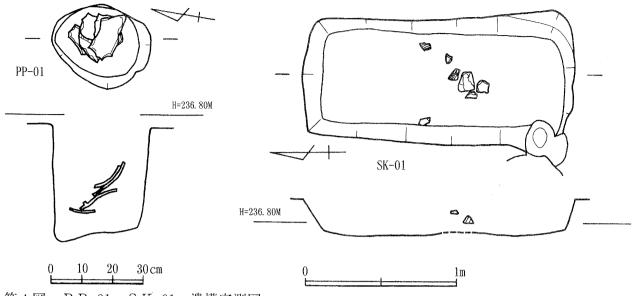
出土遺物としては、弥生土器の破片1点のほか、縄文土器41点などがある。

S A-02

西北端のSK-23の上位で検出した、1辺3.8m前後の隅丸方形住居で、痕跡程度であった。 覆土から若干の弥生土器等が出土した。







第4図 PP-01、SK-01 遺構実測図

SA-03(第5図)

01号と02号住居の中間南側で検出した、長軸3.9m・短軸2.8~3.5mの隅丸長方形を呈する。検出面は貼床上面で、本来の遺構面はⅢa2もしくはⅢb層上面であったと思われる。貼床を掘り下げると、主柱穴4基を検出した。柱穴は、直径25~37cm・深さ20~32cmを測る。

覆土から、縄文土器のほか弥生土器数点が出土した。

古墳~奈良時代の遺構・遺物は無く断絶するが、9世紀以降、若干の居住が認められ、白磁や青磁・青花が出土している。SK-23内において、坏と皿を合わせて90度横転した状態の蔵骨器が出土しており(図版-16)、中には焼骨片と炭片が若干入っていた。掘り肩は未確認である。

第4節 縄文時代

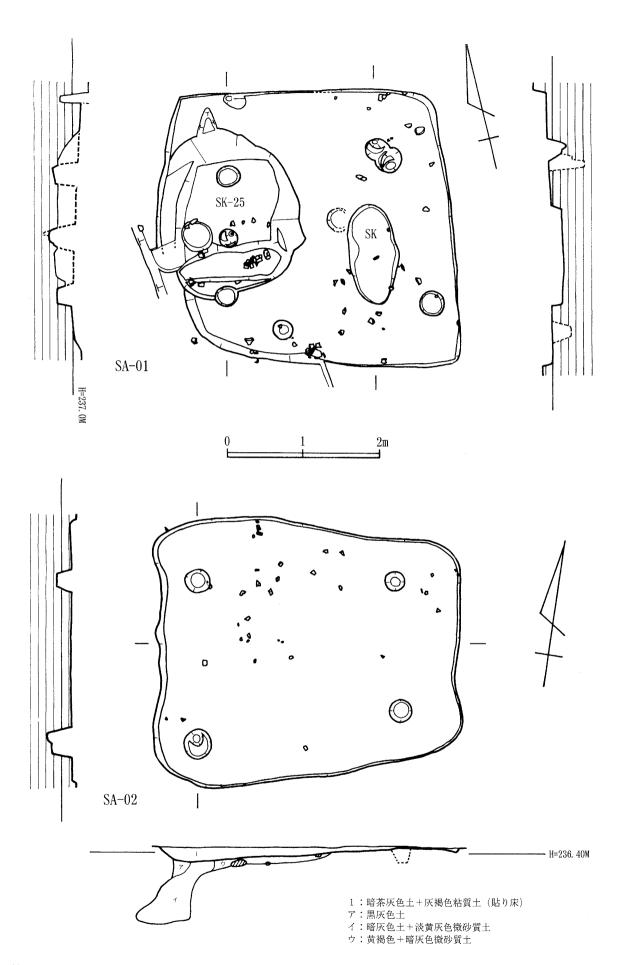
縄文時代後期から晩期にかけて、調査区北接部(宅地)の高位面に住居が密集、連綿と居住していたと思われ、その縁辺にあたる調査区において不用物廃棄坑や溝状の凹地・貯蔵穴など大小20基以上の土坑が検出された。

SZ-01 (第6図)

調査区の西側で検出された、長径3.6 m・短径3.3 mの不整形な遺構で、 $5\sim15$ cmの深さである。 北側 1 ヶ所で、直径 $21\sim24$ cm・深さ $12\sim14$ cmの柱穴を検出。中央部には炭化物を含む覆土の、長径60 cm・短径57 cm・深さ $13\sim15$ cmの土坑が伴う。

出土遺物は縄文土器が主体で、晩期の竪穴住居の可能性もある。

SK-02 (第7図)



第5図 SA-01·03 遺構実測図

長径1.3mの楕円形を呈し、深さは16~23cmを測る。底面には直径50cm内外・深さ12~15cmの2 段目の掘り込みがある。覆土から、縄文土器(第18図-103)など10点あまり出土している。

SK-03 (図版9)

直径1.25mの円形を呈し、深さは12cmを測る。覆土には、若干の後期の土器片がある。

SK-05 (第7図)

長径2.24m・短径1.32mの不定楕円形を呈し、最深部の深さ74cmを測る東側(A)と、長径2.07m・短径1.4mの楕円形を呈し、最深部の深さ73cmを測る西側(B)との重複で、B土坑が完全に埋没してのちA土坑が掘り込まれている。

A土坑の底面東側は25度の傾斜であるが、西壁は急角度である。B土坑の西~北側には、幅30~40cmのテラスが設けられている。

覆土から後期の土器片などが出土しているが、流れ込みである。

SK-06 (第7図)

長径94cm・短径83cmの楕円形を呈し、断面フラスコ型、底面の長径は98cm、短径は93cmを測る。底面では、後晩期の土器片が若干出土したが、遺構の機能を示すものでは無い。

型態的には、貯蔵穴と思われる。

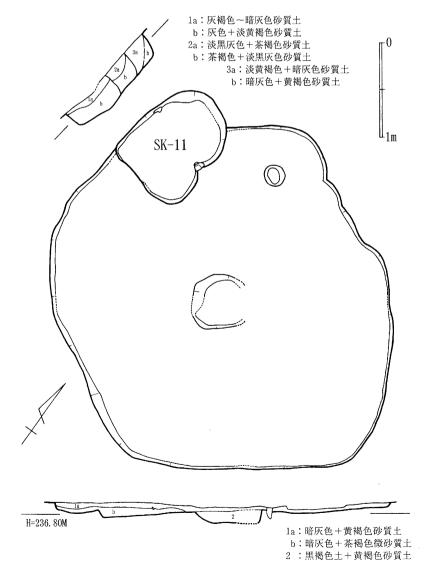
SK-12(第7図)

直径1.14mの円形を呈し、深 さは30cmを測る。底面中央には 直径60cm前後、深さ6~9cmの 掘り込みがある。

出土遺物は少なく、後晩期の 土器片が若干流れ込んでいる。

SK-13 (第7図)

長径1.4m、短径1.1mの楕円



第6図 SK-11·SZ-01 遺構実測図

形を呈し、深さは22~30cmを測る。

出土遺物は少なく、後晩期の遺物が若干流れ込んでいる。

SK-15(第7図)

土坑 4 基が連結しているが、切り合いは判然としない。南端の土坑が最大で、長径94cm・短径60cm 前後の楕円形を呈する。深さは13~16cmを測り、他の小土坑もほぼ平坦である。覆土は黒灰色砂質 土で、後期の土器片が流入している。

SK-16 (第8図)

調査区の中央やや北寄りに位置する土坑で、このあたりから北~西の遺構は、上(北)の微高地から大量の遺物を含んで流れ堆積したⅢ層を掘り下げると遺構が検出される。

当土坑は、長径5.4m・短径2.3mの楕円形を呈し、最深部の深さは1.14mを測る。南東部には直径1.8mの浅い円形土坑があるが、別遺構と思われる。

機能を示す遺物は出土していないが、後晩期の土器片が若干出土している。

SK-17 (第8図)

長径 2m・短径1.4mの楕円形を呈し、深さは60cmを測る。形状から、 $2\sim3$ 基の土坑の複合体の可能性もある。覆土は数枚に分かれ、ゆっくりと埋没したようである。

SK-18 (第8図)

SK-17の南に位置した、長径4.2 m・短径2.4 mの不定形な土坑で、最深部の深さは1.0 mを測る。底面には複雑な掘り込みがあって $7 \sim 8$ 基の土坑の複合体のようにも見えるが、覆土は一様に埋まっている。

機能を示すような出土状態の遺物は無いが、後晩期の土器片が若干出土している。

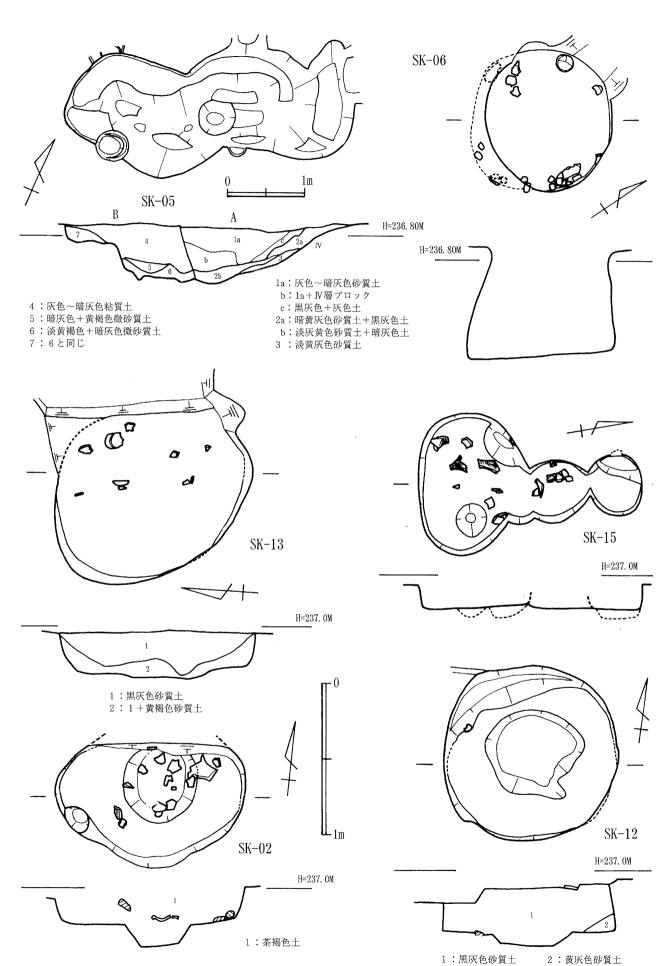
SK-19 (第8図)

S K-18の南西に接する、長径2.2m前後・短径0.9~1.3mの不整形土坑である。最深部の深さは 60cm を測り、北に向かって傾斜する。

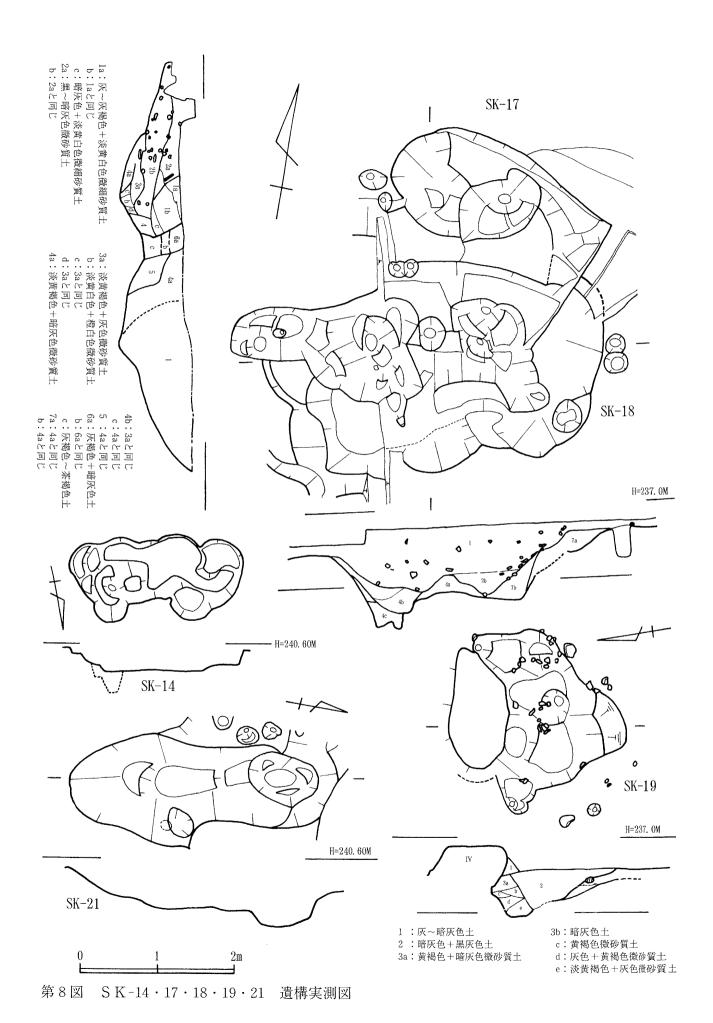
機能を示す遺物は無いが、後晩期の土器片が出土している。

SK-21 (第8図)

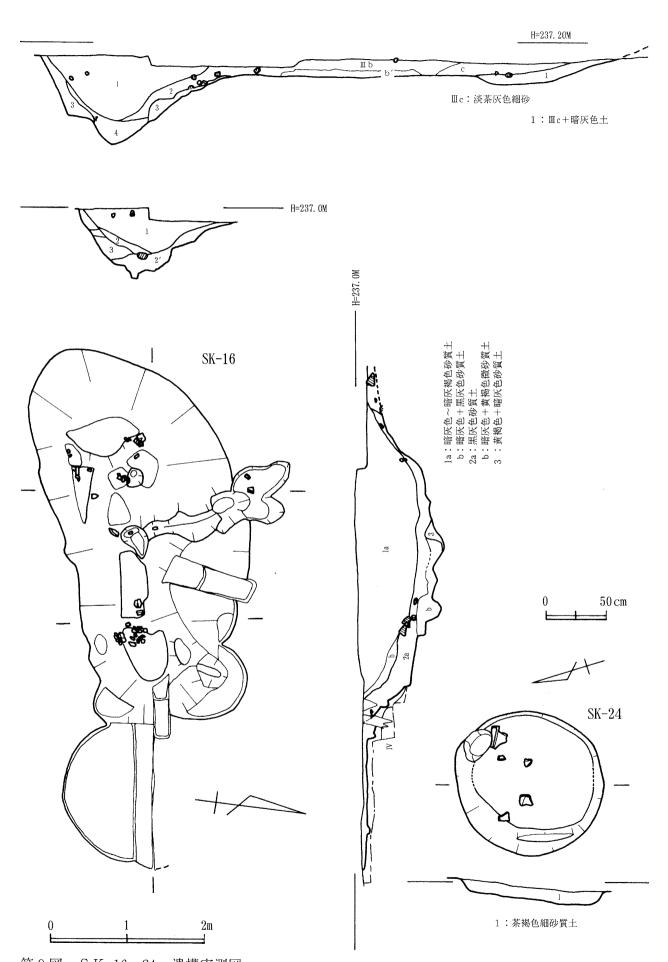
長径3.48m・短径 $1\sim1.4$ mの不整楕円形を呈し、大型土坑の中で唯一、主軸を北向き(地形と直行する)にとるものである。深さは50m前後で、底面の北寄りには長径90m・短径62m・深さ24mの掘り込みがある。



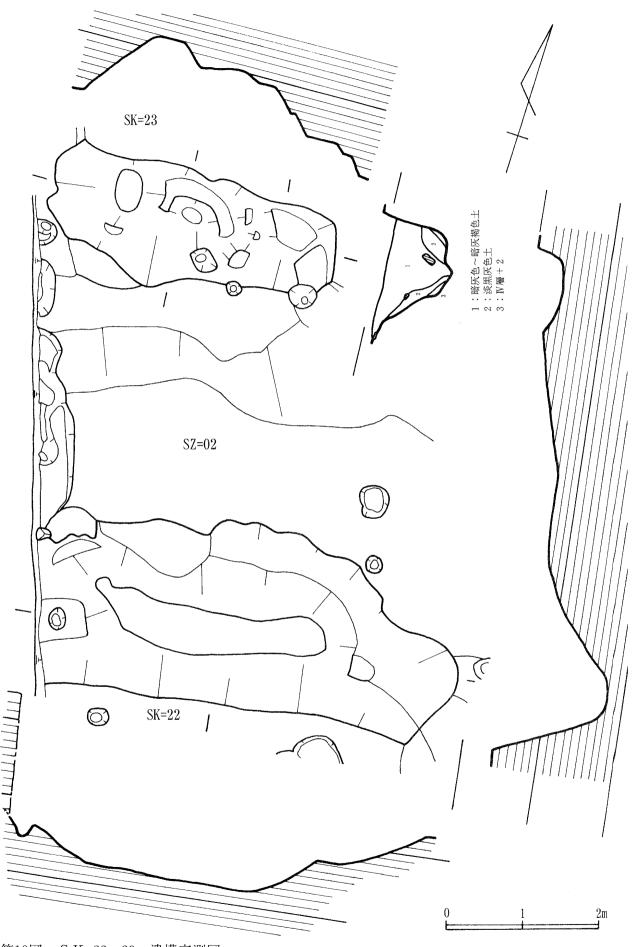
第7図 SK-02·05·06·12·13·15 遺構実測図



— 256 —



第9図 SK-16·24 遺構実測図



第10図 SK-22·23 遺構実測図

覆土に包蔵する遺物は少ない。

SZ-02 (第2図)

大型土坑群より以前に掘り凹められた、幅 $2 \sim 7.2 \,\mathrm{m}$ ・深さ $30 \sim 50 \,\mathrm{cm}$ の溝状を呈する。調査区では長さ $23 \,\mathrm{m}$ あまり、18号土坑の東 $4 \,\mathrm{m}$ で収束する状態を検出したが、西側がどこまで延びるのか、 微高地を囲むのかといった問題は未解決である。

覆土および飽和後の上部包含層から縄文土器だけでも80,000点前後が出土しており、廃棄物処理 の為の掘り込みと思われる。

SK-22 (第10図)

調査区西端の南側掘り肩がSZ-02の掘り肩と同化(築造時期が同じ)する。長径5.6m以上・短径2.2m前後の、不整円形を呈する。最深部の深さは1.4mを測り、大型土坑の中でも最も深い。 遺構の性格を示す遺物は無いが、後期の土器片等が若干出土している。

SK-23 (第10図)

22号土坑と対峙するように掘削された、長径3.8m・短径 $1.1\sim1.7m$ の不整楕円形を呈する。最深部の深さは95cmをはかり、底面は東側が緩やかである。

東部の覆土中位から敲打痕を明瞭に残す台石1点(長さ82cm・幅28~36cm・厚さ10cm内外)が出土したほか、若干の後晩期の土器片が出土した。

SK-24 (第9図)

直径95~98cmの円形土坑で、深さは7~8cmである。底面は、南北に傾斜している。 出土遺物は少ないが、黒色磨研土器が数点出土している。

出土遺物

調査区全体での出土遺物は大量で、後晩期の土器片が約83,000点、石器・石製品が約500点、石核・剥片・チップが約6,000点出土している。以下、主要遺物について記述する。

縄文土器 (第11図~第135図)

大量の遺物にもかかわらず、接合した遺物は少ない。土器片は主たる遺物約2,500点の実測をした。これらは層序的に型式編年は追えないが、後期の市来式・一湊式・鐘崎式・三万田式土器や晩期の天城式・古閑式が多く、且つ、縁帯部の幅や沈線の数・文様の多寡(複雑~単純)によって細分、机上での型式編年はできるが、層位的には証明できない。加えて、前後・並行する型式の土器が若干出土している。

研磨調整の鐘崎式土器の沈線内に赤色顔料を塗布した例も多く、祭祀用土器として搬入した可能性がある。この他、赤色顔料を塗布する土器は台付皿・台付鉢に多く認められる。

土器片加工円盤 (第137~140図)

明らかに人為的に打ち欠いて円形に加工した遺物で、約140点出土している。中には例外的に精円形を呈するものも2点(**2595・2661**)ある。側面は、かなり研磨したものから未処理のものまで様々であるが、製品~未製品の段階過程に相応するものと思われる。

素材の大部分は後期の土器片の胴部であるが、中には口頸部や底部、晩期前半の土器の胴部片も利用される。最終的には穿孔されて紡錘車になるか、切り込みを入れて土器片錘になるか、標的に向けて投げる手玉として使用されたと推定される。

石器・石製品 (第141~158図)

打製石鏃の製品は80点余り出土し、後晩期に多い5角形鏃は35%を占める。石材は様々であるが不純物を含む黒曜石は使用されていない。

石錐は25点のうち1点のみが黒曜石製で、石匙も25点(未製品も含む)のうち黒曜石製は2点しか無く、石材の選択が明瞭である。

石錘は少なく、網を使用する漁は殆ど行なわれなかったと推定される。

様々な石材の大型剥片や扁平礫は、刃器に使用されている。

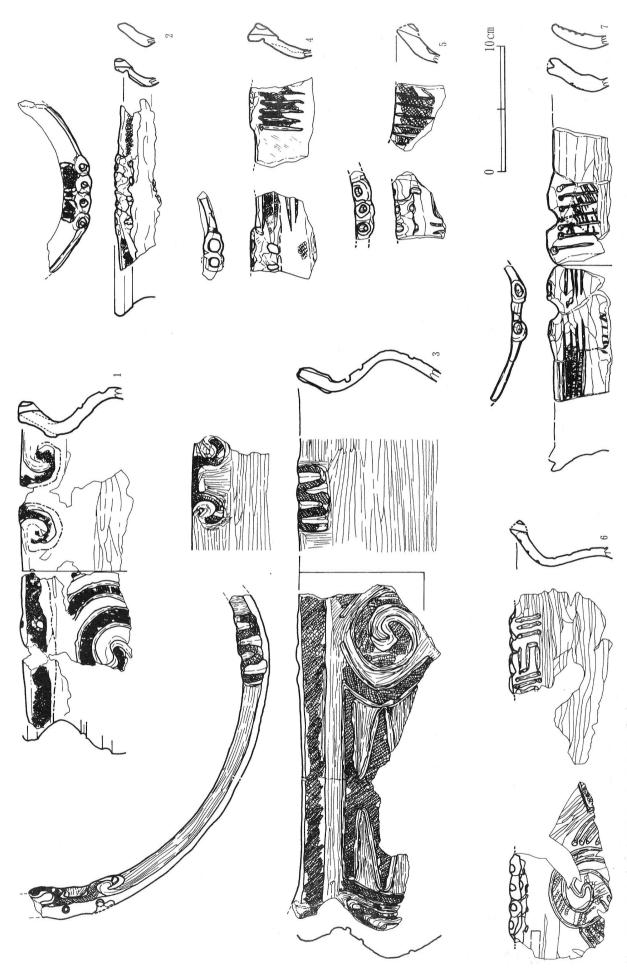
石器や剥片類の量に比べると敲き石は少ない。当初から敲き石として使用されたものは石英塊か 棒状の礫に限られ、硬砂岩製の石斧破損品や磨石の側面、磨石破損品などが代用されている。

円形の軽石加工品(3066)には、側面に2条、平面に方斜状に沈線が刻まれており、岩偶の一種と推定される。3064には径4cm前後の棒を研磨したと推定される凹みがあり、砥石的機能が考えられる。また、3065の側面には数条の沈線が刻まれている。

垂飾品(第141図-**2725~2733**)

S Z - 02 の上位、 III 層から径 2 m位の範囲に散布していた。管玉は長さ21 ~ 29 mm、最大径 6 mmのもの 4 点(2730 ~ 2733)で、全て破損している。緑~暗緑色の蛇紋岩もしくは碧玉製と思われる。 2727 は厚めの小玉で、直径 7 mm・厚さ 4 mm強、径 2 mm・両面穿孔の孔がある。小玉は、径5.5 mm・厚さ 2 ~ 2.7 mmのもの(2725)と、径6.5 mm・厚さ 1.8 ~ 2.4 mmのもの(2726)があり、径 2 mm前後・両面穿孔の孔がある。さらには、復元径10 mm・厚さ 3.7 mmのヒスイ製品(2728)があり、破損後に再研磨して先を尖らせている。勾玉(2729)は碧玉製と思われ、長さ 14 mm・幅 11 mm・厚さ 2.5 mm前後で、内径1.2 mmの両面穿孔 1 孔がある。これらは晩期の首飾と思われ、破損後に廃棄されたものと考えられる。また、2727 以外は、鹿児島県加世田市上加世田遺跡出土品に酷似する。

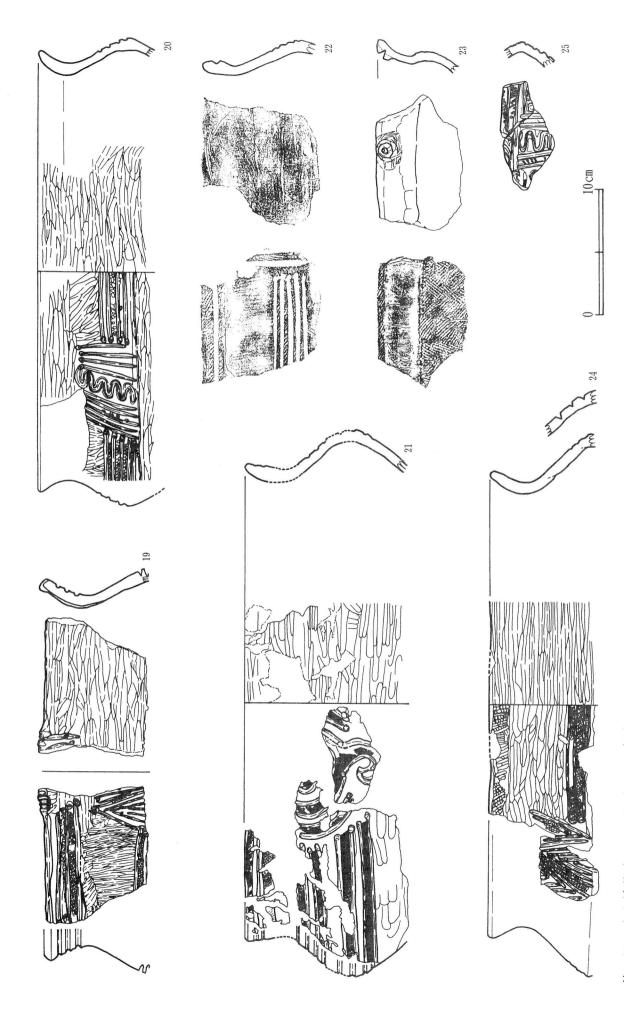
この他、第154図-3225は自然礫の有孔部を若干加工した程度のものであるが、孔内面はかなり磨



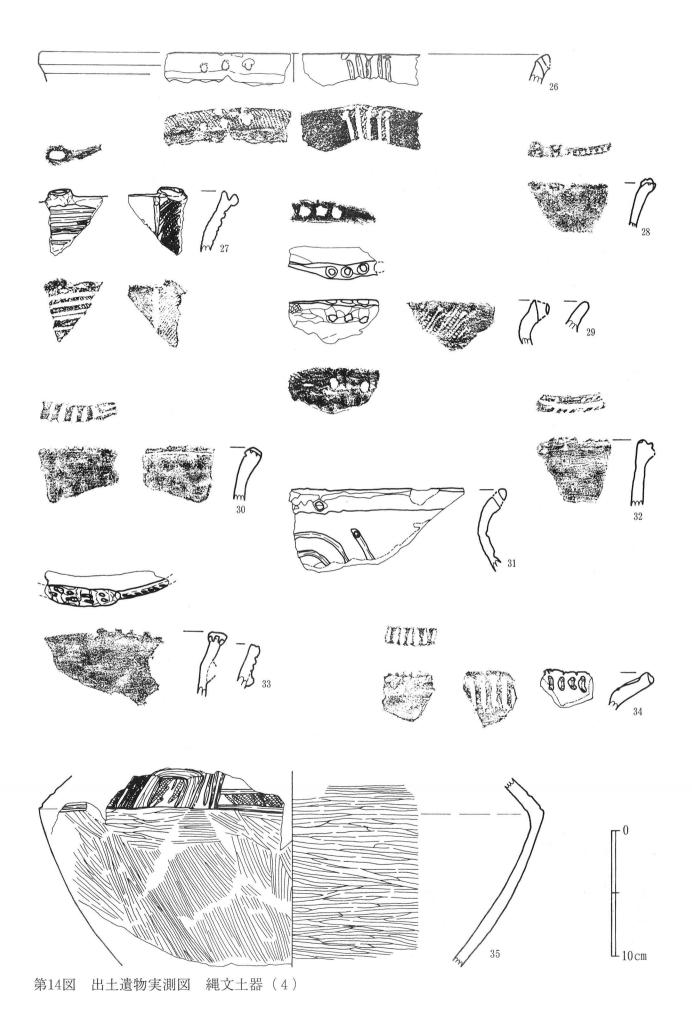
第11図 出土遺物実測図 縄文土器(1)



第12図 出土遺物実測図 縄文土器 (2)



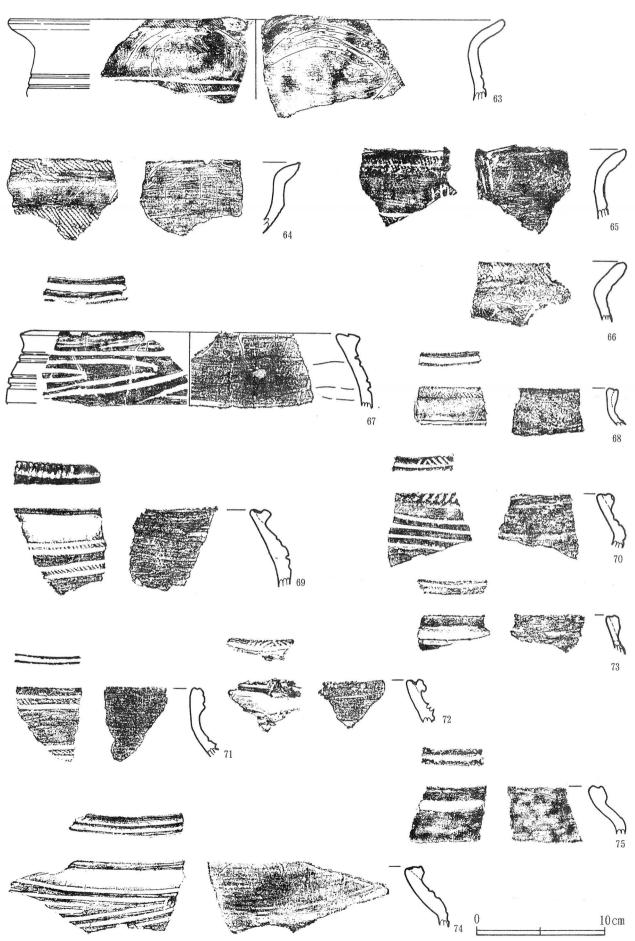
第13図 出土遺物実測図 縄文土器(3)



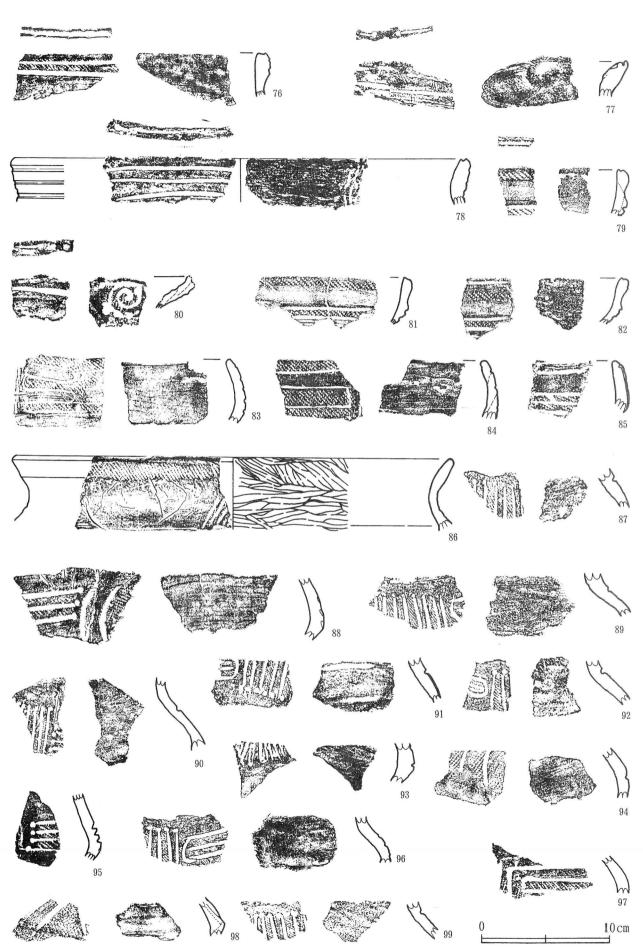
— 264 —



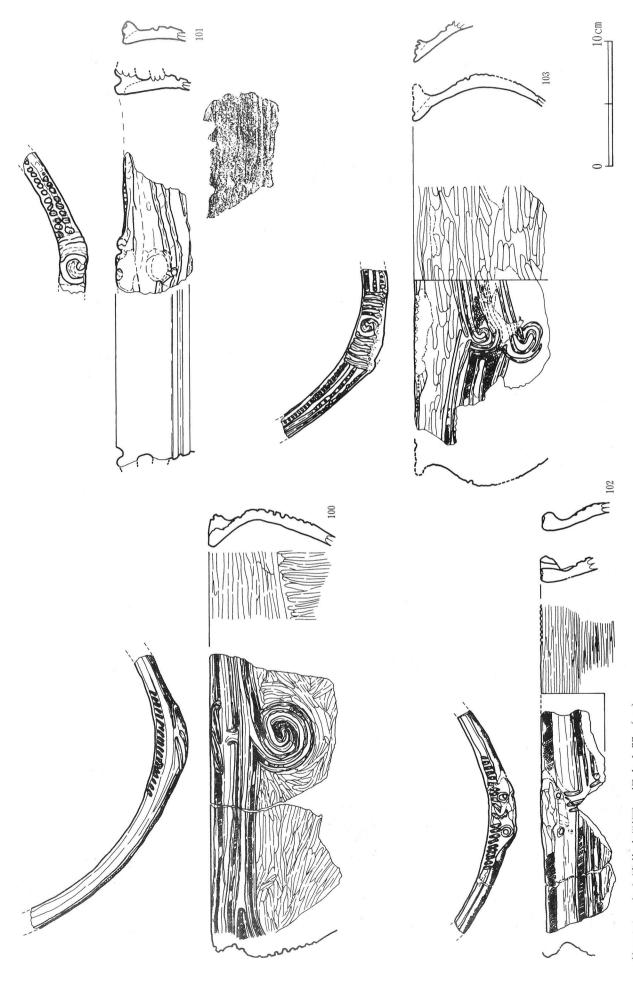
第15図 出土遺物実測図 縄文土器 (5)



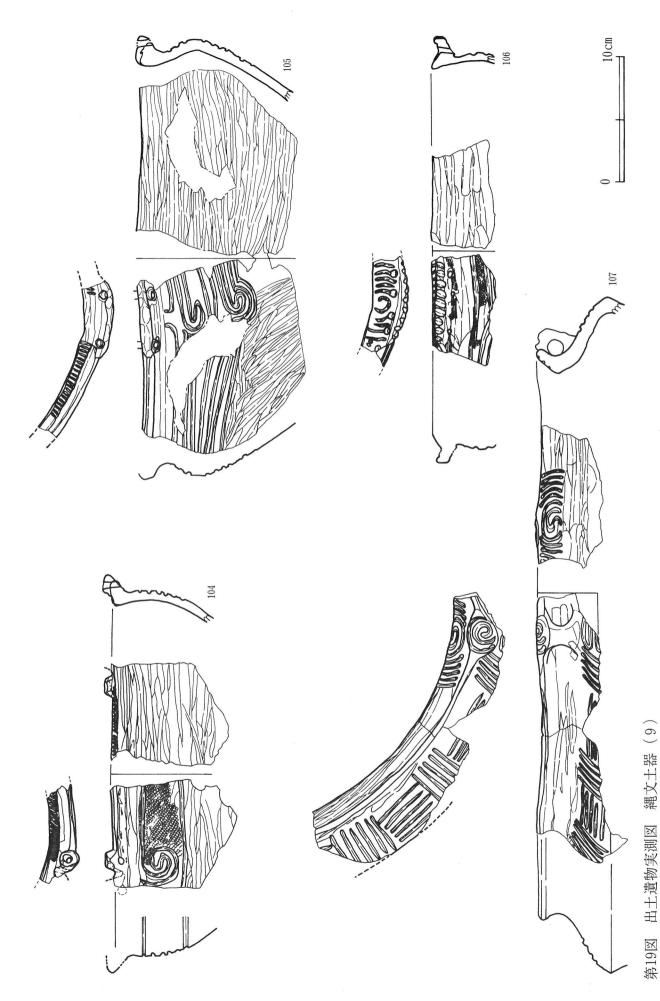
第16図 出土遺物実測図 縄文土器 (6)



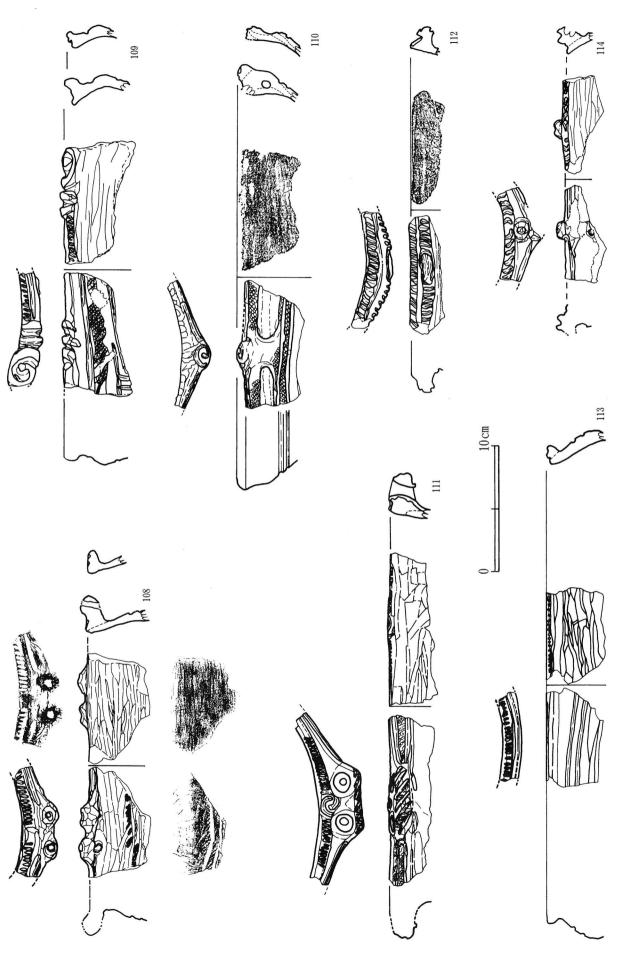
第17図 出土遺物実測図 縄文土器 (7)



第18図 出土遺物実測図 縄文土器(8)



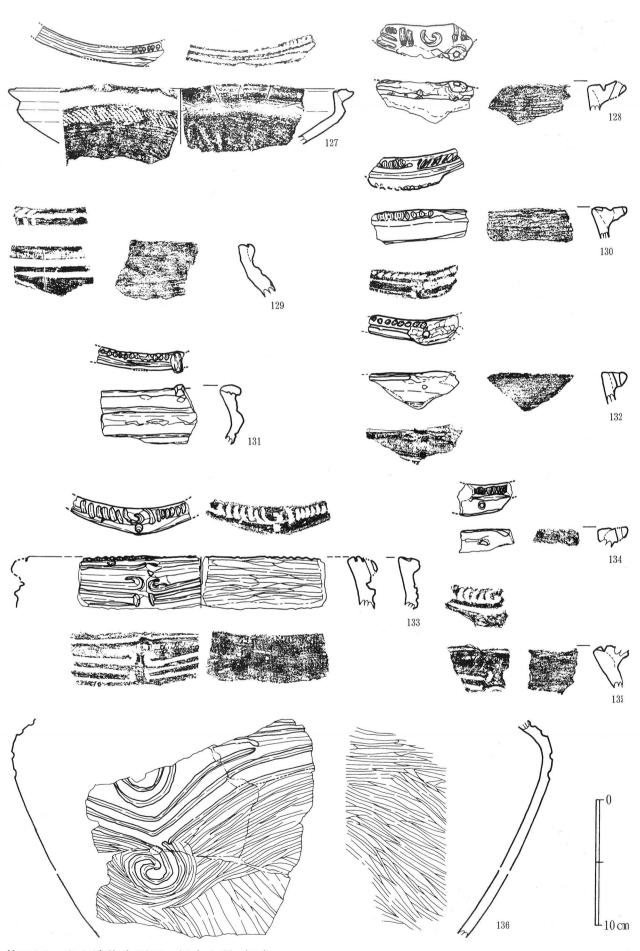
- 269 **—**



第20図 出土遺物実測図 縄文土器 (10)



第21図 出土遺物実測図 縄文土器 (11)



第22図 出土遺物実測図 縄文土器 (12)



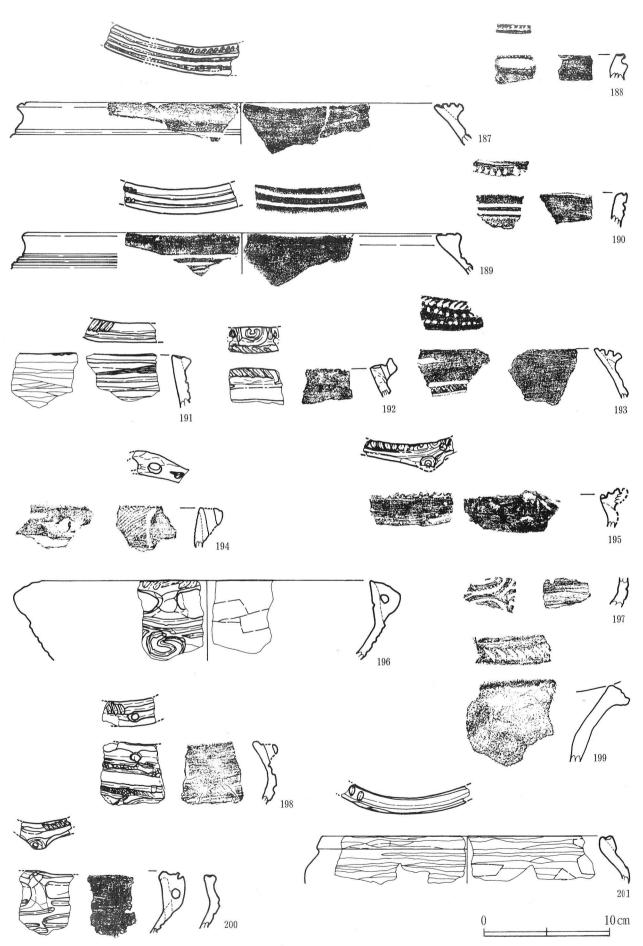
第23図 出土遺物実測図 縄文土器 (13)



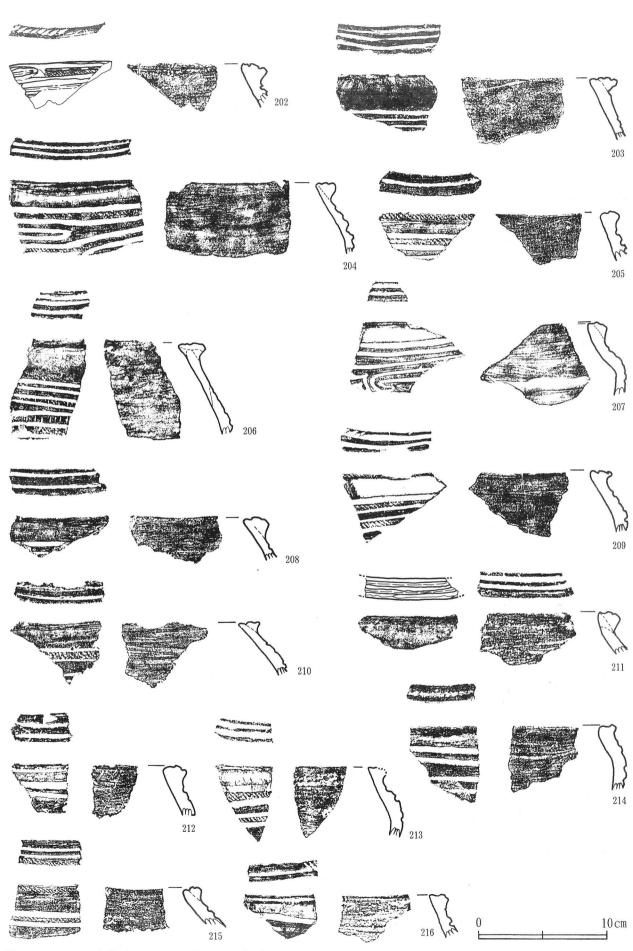
第24図 出土遺物実測図 縄文土器 (14)



第25図 出土遺物実測図 縄文土器 (15)



第26図 出土遺物実測図 縄文土器 (16)



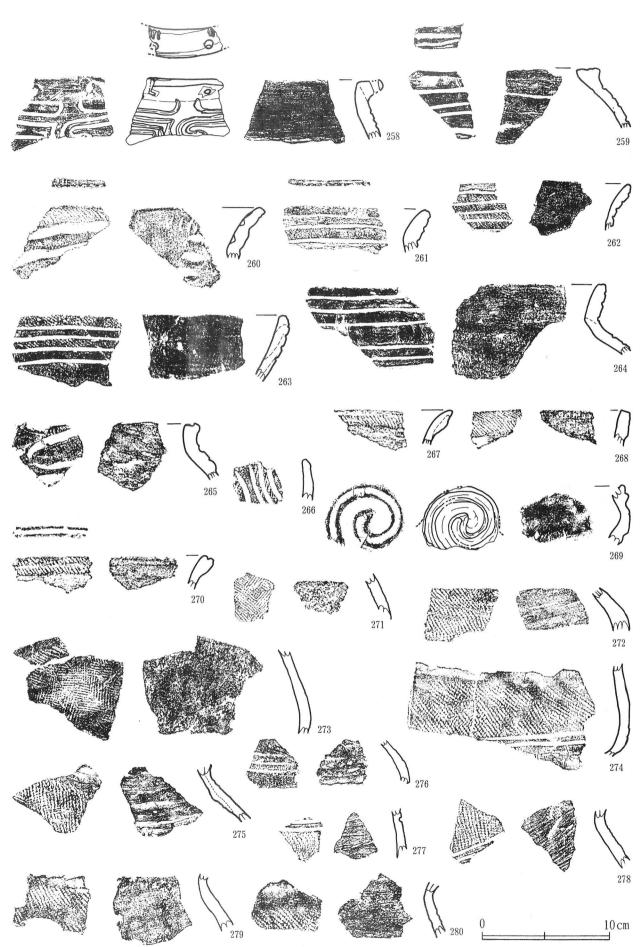
第27図 出土遺物実測図 縄文土器 (17)



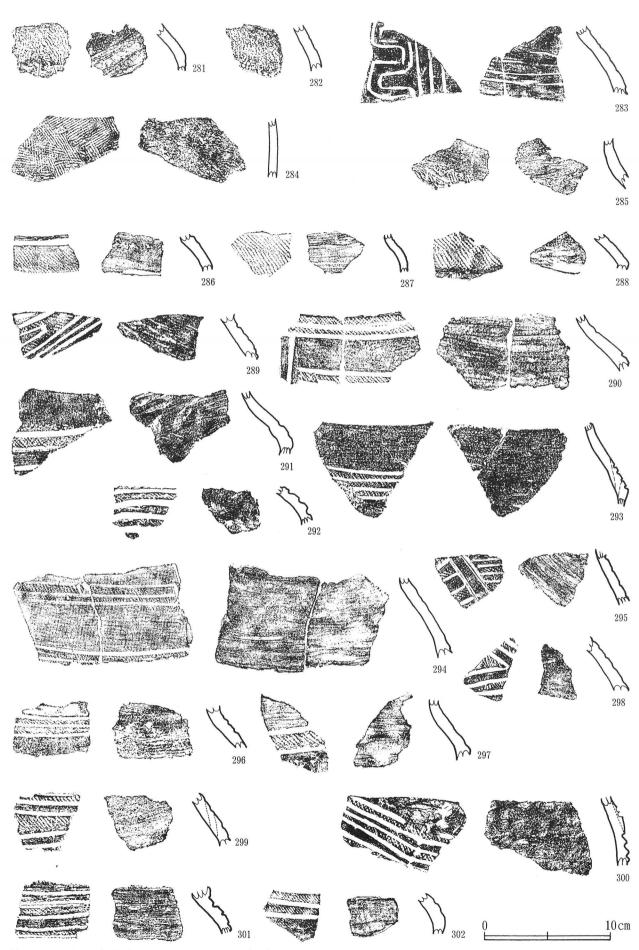
第28図 出土遺物実測図 縄文土器 (18)



第29図 出土遺物実測図 縄文土器 (19)



第30図 出土遺物実測図 縄文土器 (20)



第31図 出土遺物実測図 縄文土器 (21)